

全国路地サミット2009 in K O B E
開催概要報告書

平成22年6月18日

全国路地のまち連絡協議会

もくじ

0 はじめに	1
長田まち歩き	3
フォーラム	
1 . 開会・主催者挨拶	1 8
2 . 前回開催地・長野からの報告	1 9
3 . 関西路地サミット報告	2 0
4 . 基調報告『路地を生かしたまちづくりの現在』	2 1
5 . 全国路地のまち活動報告	2 6
5 - 1 . 大阪市法善寺横丁地区（商業中心型）	
『元の道幅を保って復興を果たした経験から』	2 6
5 - 2 . 新宿区神楽坂地区（商業・生活複合型）『神楽坂の路地文化』	2 9
5 - 3 . 神戸市駒ヶ林地区（生活中心・平坦地型）	
『漁村集落の路地を生かした近隣住環境計画』	3 1
5 - 4 . 神戸市東垂水地区（生活中心・斜面地型）	
『幹線道路も区画道路もないまちの路地をどう生かすか？』	3 3
6 . みんなで考える「路地を活かしたまちづくり手法」	3 6
7 . 相互報告会	3 7
7 - 1 . 商業中心型チーム	3 7
7 - 2 . 商業・生活複合型チーム	3 8
7 - 3 . 生活中心平坦地型チーム	4 0
7 - 4 . 生活中心斜面地型チーム	4 1
7 - 5 . まとめ	4 3
8 . 次回開催地・新潟からの報告	4 4
9 . 閉会あいさつ	4 5
1 0 . 懇親交流会	4 6

神戸路地のまち歩き

Aコース：南京町～乙仲通界限	4 8
Bコース：北野～山本通界限	5 2
Cコース：駒ヶ林界限	5 7
Dコース：塩屋・東垂水界限	6 0

資料編

パンフレット	7 1
長田まち歩き関連	7 3
フォーラム配布資料	7 7
神戸関連配布資料	1 2 2
空堀配布資料	1 4 6
神楽坂配布資料	1 4 8
まち歩きMAP等	1 7 8
関西路地サミット関連資料	1 8 5
サミット関連記事	2 1 9

0 はじめに

1) 名称

全国路地サミット 2009 in K O B E

～みんなで考える「これからの“路地を生かしたまちづくり”」～

2) 開催趣旨

全国には、路地を残した地区が数多くあります。それは「木造密集市街地」という克服すべき都市の課題をはらんでいると同時に、ヒューマンスケールの町並みと、緊密なコミュニティを備えています。さらに路地を愛する人も多いことから、観光地としての魅力を備えた場合もあります。これらの地区が、防災性を備え、コミュニティ形成の基盤となり、さらに観光資源ともなりうるような「路地を生かしたまちづくり」に関する議論が生まれ、広がることは、豊かな都市の未来の姿を生み出す上で必要なことだと考えられます。

今回のサミットでは、全国で進められている「路地を生かしたまちづくり」の事例を概観するとともに、相互に情報共有し議論を深め、これからの実践的なまちづくりに寄与することを目的として開催します。

3) 主催団体等

主催	全国路地サミット IN K O B E 実行委員会 事務局(スタジオ・カタリスト) (社)兵庫県建築士会、いきいき下町推進協議会、こうべまちづくりセンター、すまいるネット
共催	全国路地のまち連絡協議会
協賛	(株)大阪ガス
後援	旧二葉小学校の活用検討委員会、FMわいわい、(株)神戸新聞社、長田区役所、神戸市、NPO 日本都市計画家協会

4) 主催団体等

	日 時	内 容	会 場
平成 21 年 10 月 24 日	10 : 00 ~ 11 : 30	長田地区まち歩き	J R 新長田駅 ~ 旧二葉小学校
	13 : 30 ~ 17 : 40	フォーラム	旧二葉小学校
	18 : 00 ~ 20 : 00	懇親交流会	
平成 21 年 10 月 25 日	10 : 00 ~	神戸路地のまち歩き	南京町 ~ 乙仲通界限 北野・山本通界限 駒ヶ林界限 塩屋 ~ 東垂水界限

5) 参加者数

平成 21 年 10 月 24 日(土) フォーラム 約 100 名

6) 関連イベント

平成 21 年 6 月 13 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 00 開催

関西路地サミット

会場 : こうべまちづくり会館 3 階多目的室

長田地区まち歩き

24日(土) 10:00 JR 新長田駅前集合

案内: 兵庫県建築士会有志

参加者: 60名

1) 新長田駅前

阪神淡路大震災で大きな被害を受けた長田の街が今年の「全国路地サミット」のホストとなった。集合場所は JR 新長田駅前広場である。駅前広場周辺の再開発はほぼ終了し、広々とした歩行者空間の駅前広場は噴水などが設置され親子連れが楽しく遊んでいる。商業ビルや高層マンションも完成し、駅西南部の幹線道路と陸橋の整備が進んでいるところである。



新長田駅前広場南東を見る



新長田駅前広場南を見る



新長田駅前広場南西を見る



新長田駅前広場集合場所

ウェブサイト「震災記録写真(大木本美通撮影)」によると、この辺り一帯は大震災でほとんど壊滅状態(写真最下段参照)であった。写真右は、現在の Google ストリートビューの写真で、震災時の写真の左端のマンションが、写真の左側に建っている。(最上階に円弧状の装飾をつけた建物) Google ストリートビューの写真は上記左上の写真の高層マンションの反対側の位置から何背を移した写真である。



ウェブサイト「震災記録写真(大木本美通撮影)」より「新長田駅南側(1995.02.07撮影)」



Google ストリートビュー(2010.06.15)より

2) 新長田一番街

駅前広場を出て南西に向い、幹線道路を渡ってアスタプラザファースト北側の歩行者専用道に入る。新長田周辺には故横山光輝氏が若い時代に住んでいたことにちなんで、地域の復興のシンボルとして鉄人 28 号の実物大モニュメントがまさにこの年完成したばかりであった。アスタプラザファースト北側の歩行者専用道路の街灯の笠は鉄人 28 号の頭部をそのままデザインしている。地元ではギロチン街灯と読んでいるらしい。



駅前広場側からアスタプラザファーストを見る



アスタプラザファースト北側の歩行者専用道



ギロチン街灯



アスタプラザファースト東側街区

鉄人 28 号は、「KOBE 鉄人 PROJECT」の一環として整備された。「KOBE 鉄人 PROJECT」は、漫画家横山光輝氏の偉業をたたえ、先生のご出身地である神戸にモニュメントや記念館を設立するもので、これらの整備により地域の活性化をめざしている。2007 年 9 月には同名の NPO 法人が発足している。このため、長田地区の商店街には三国志のキャラクターの石像や展示ブースなどが設置されている。



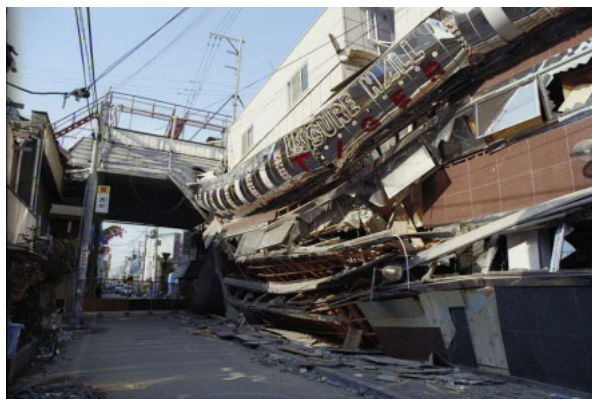
鉄人 28 号実物大モニュメント



新長田一番街とツアー参加者



三国志スタンプラリー案内板



震災時の新長田一番街（左 1995.02.07 若松町 5 丁目、右日吉町 1 丁目 1995.03.29 大木本美通氏撮影）



現在の新長田一番街（アスタプラザファースト・イースト・ウェスト）

再開発により整備された新長田一番街と大正筋商店街は、アスタという施設名で統一され、ほとんどの建物が歩行者デッキや地下通路で接続され、地上+デッキレベル+地下レベルの三層で結合した街の構造をめざした。特に、新長田一番街と大正筋商店街の間には、広幅員かつ交通量の多い国道2号線が横切っているとともに、阪神高速3号線が高架で横切っており、この南北間の結合が大きな課題であったようだ。

現在、アスタシリーズや久二塚住宅シリーズの管理を「新長田まちづくり(株)」が担当し、別に「(株)ながたティ・エム・オー」が設立され、地域の活性化にハード・ソフト両面から取り組んでいる。アスタは公募により決まったそうで「明日」と「US」をかけて、さらに「タウン」の「タ」を組み合わせた新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業 20.1 全体の愛称である。詳しくはそれぞれのサイトを参照して欲しい。

サイト	アドレス
神戸市「新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業 アスタ新長田のご案内」(PDF)	http://www.city.kobe.lg.jp/information/project/urban/redevelopment/img/asuta.pdf
新長田まちづくり(株)	http://www.shinnagata-stm.com/index.htm
神戸市「新長田まちづくり(株)」	http://kobe-city.jp/nagata.aspx
(株)神戸ながたティ・エム・オー「神戸・新長田濃厚コテコテにゆうす	http://www.kobe-nagata-tmo.com/09/tonight/tonight-index.html
(財)あしたの日本を創る協会「(株)神戸ながたティ・エム・オー」	http://www.ashita.or.jp/publish/furu/f2005/49.htm

アスタイースト(ホテル棟)1階には、足湯が設置されて、地域の人々憩いの場となっている。地下の店舗はまだ未入居店舗が多く、これは震災による人口減少等と、最近の商業構造の変化によるものと考えられる。

国道2号線の地下道にはギャラリーが設置され、新長田の歴史や阪神・淡路大震災の写真などを展示しているとともに、アスタくにつか1番館北棟に「神戸映画資料館」があることから、古い映画のポスターを展示して、暗くなりがちの地下道を演出している。



アスタイーストの足湯



地下の未入居店舗



地下のスーパー



国道2号線地下道



地下道のギャラリー展示



地下道のギャラリー展示



地下道のギャラリー展示



地下道のギャラリー展示

3) 大正筋商店街

国道2号線を渡るとそこは大正筋商店街となる。先ほどギャラリーとなっている地下道と、丸い断面をした歩行者デッキで繋がっている。アスタくにづか1番館北棟の吹き抜けを上っていくと「神戸映画資料館」がある。



アスタくにづか1番館北棟吹き抜け地下1階



アスタくにづか1番館北棟吹き抜け2階



国道2号線歩行者デッキ



「神戸映画資料館」内部



「神戸映画資料館」

大正筋商店街は、新長田一番館とは若干アーケードの雰囲気が変わっている。舗装も明るいタイルを使っており、全体的に新長田一番街より明るく仕上がっている。また、舗装には芸能人などからの長田地区への応援メッセージが本人の手形とともに埋め込まれている。

アスタくにづか1番館北棟と南棟の間は通り抜け路地?になっており、渋滞の入口や駐車場棟へのア

クセスとなっている。駐車場棟の屋上部分は屋上緑化がされているようである。この西側隣接街区は、従来の市街地が広がっており、路地園芸の緑が豊かな路地が見られた。この再開発街区も震災前はこのような市街地だったのだろうと思う。



大正筋商店街



三国志関羽等身大石像



舗装の応援メッセージと手形



街区と街区をつなぐデッキ



街区裏側への通り抜け路地？



裏側の駐車場（屋上緑化）



隣接街区の既存の路地

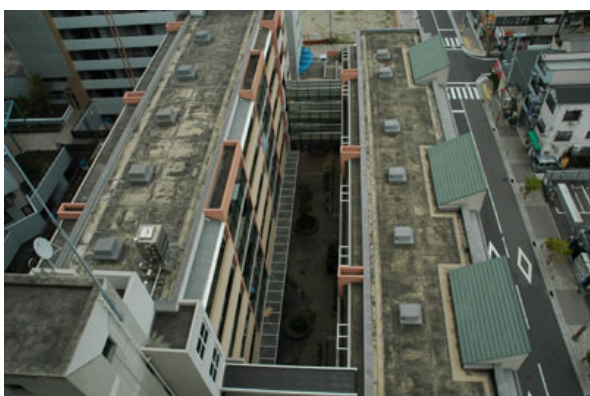
アスタくにづか1番館北棟の最上階の展望テラスから周辺街区を望むと、周辺は低層建物が密集した市街地が広がっており、アスタ街区の再開発建物との対比が大きい。また、地上で見た隣接街区の路地と南棟の中庭が新旧のコミュニティ空間として対比できる。



アスタくにづか2番館北棟から南を望む



アスタくにづか2番館北棟から南西を望む



アスタくにづか2番館南棟



アスタくにづか2番館北棟から北西を望む



隣接街区の路地をうえから望む



アスタくにづか2番館南棟中庭



アスタくにづか2番館南棟



アスタくにづか2番館南棟



この班の案内人森崎氏



ツアー参加の子どもにバルーンアートをサービスする東京都北区の和田氏



隣接街区「昭和筋」



隣接街区の路地



アスタくびづか2番館南棟コミュニティスペース



アスタくびづか2番館南側の空地(住環境ゾーン)



4番館と6番館の間の道路



4番館西側



たこ焼きや 10個 200円



マヨネーズもなく醤油っぽい味



駒ヶ林駅方面



3番館と5番館の間の道路

4) 既存市街地

再開発エリアを抜けて既存商店街に入る西神戸センター街はアーケードはかなり古いが、ワゴン販売などもあってそれなりの賑わいを見せている。店舗名統一看板の下には三国志の武将を描いたバナーが下がっている。それぞれ違う武将が描いており、意外にお金がかかっている。商店街の中程幅 70 センチくらいの建物と建物の間を抜けると、懐かしい風景の路地が出現する。



西神戸センター街



建物と建物の間の隙間を抜けると



西神戸センター街三国志バナー



建物と建物の間の隙間



丸五市場の今井さん



丸五市場の入口



丸五市場内部、空き店舗が開店前なのか

路地を曲がったところの街区中央に丸五市場のオレンジ色の日除けテントが突如として現れる。周辺が特に賑わっているわけでもなく、入口両脇の店舗も表通り側は素っ気ない作りである。中に入ってみると幅1間程度の通路を挟んで店舗が並んでいる。まだ午前中で開店していないのか、あるいは空き店舗なのか、我々には推し量るすべがない。別の出口から出るが、そこは何の変哲もない住宅街の路地であった。



この陳列密度はすごい！



休憩所



シャッターが斜め！なぜ？！



別に入口、住宅街忽然と



本町筋商店街



丸五市場の中のアジア横丁



まるごの小道

丸五市場を出て、本丁筋に戻り諸葛亮孔明の像を見る。スーパーの前の賑やかなところに設置してあるが、スーパーの客の自転車に埋もれて照明もなく良く解らない状況となっている。

本丁筋から六間道商店街に入る。こちらも老朽化した全蓋アーケードの商店街である。中には閉店セール9割引と表示した洋服店もある。子供用ポロシャツ(不良品)のワゴンたたき売り状態など、ひやかして歩くのに最適な商店街である。



本町筋商店街の両側は路地のまち



本町筋書店街



自転車置き場の奥の孔明



見事なまでの商品陳列(本町筋・六間道交差点)



全品9割引の店、3ピース4,500円!(六間道)



店より道路の方が広い商品陳列(六間道)



映画クローズ ZERO のロケ地でした(六間道)

第6回の長野もそうであったが、六間道は映画「クローズ ZERO」のロケ地だったことがアピールされている。商店街の両側は路地のまちで、その中の一つは路地の中央にレンガタイル舗装がされており、丸五市場のそばにあった同じプレートに「れんがの小道」と表示してある。

大正筋に戻りサミット会場旧二葉小学校をめざす。空き店舗を活用しているのか、魏武帝廟や三国志館、震災ミュージアムがテナントとして入っている。神戸のB級グルメ? 「豚まん」と「ぼっかけ」で腹ごしらえをしてサミットに向かった。



商店街脇の路地



路地中央にレンガタイルの舗装



れんがの小道プレート



大正筋の魏武帝廟、右隣は三国志館



震災ミュージアム（大正筋）



長田グルメ：豚まん



長田グルメ：ぼっかけ

5) 旧二葉小学校



旧二葉小学校正門



旧二葉小学校校舎



廊下



階段



講堂（サミットフォーラム会場）



懇親会（旧職員室）バルーンアートの和田氏

フォーラム

1. 開会・主催者挨拶

(上山卓)

司会の上山です。兵庫県建築士会に所属しています。よろしくお願いします。

開催に先立ち会場を紹介します。この建物は統合によって廃校された旧二葉小学校で、その講堂です。昭和4年建設で80年以上が経過しています。昨年度に保存活用することが神戸市において決定され、来度に改修を行い平成22年の秋に地域活性化に向けた拠点の一つとして新しい事業が始まります。現在は地域主体の旧二葉小学校の活用検討委員会が設けられ、活用方策が検討中です。

今回の路地サミットは、神戸市さんとその活用検討委員会の好意により借りることができました。

今回の路地サミットは、大阪ガス株式会社に協賛を、そして活用検討委員会、FM わいわい、株式会社神戸新聞社、長田区役所及び神戸市にご後援をいただいています。

開催にあたって全国路地サミット inKOBE 実行委員会委員長で、神戸大学名誉教授の安田丑作からご挨拶申し上げます。



(安田丑作)

みなさん、こんにちは。ようこそ神戸市へおいでくださいました。私は、プログラムの下にある「兵庫県建築士会・いきいき下町推進協議会・こうべまちづくりセンター・すまいるネット・全国路地のまち連絡協議会」とあるが、そのいずれにも関わっているだけということだけで委員長となりました。

今日、午前中にまち歩きが実施されましたが、参加された方はいずれも、表通りより裏通りを、料理でいえばフルコースより居酒屋を、レコードでいえばA面よりB面をというように味わいを好まれるような味のある方ばかりのように見受けられました。参加された方は、専門家、建築家、都市計画家の方が多いようですが、現場主義のまちづくりというのですか、まちを歩いてから考えようという方が多いようです。

ここ神戸市は15年前に大きな被害を受けたところであり、今日その復興の様子をご覧になられた分ですが、路地とそうしたものとを対比をどのように考えるかを、このあとの話の中で出てこようかと思われま

す。路地にこそまちの実相があるわけで、大切にしてい

くべきものでありますが、と同時に路地がもっている課題も大きいわけで、15年前に大きな被害を受けたことも事実として受け止めなければならない。また、少子高齢化の中でコミュニティの維持困難もあるわけ

です。こうした状況を踏まえ、この6月に関西路地サミットを開催し、今日に備え準備的な議論をしようと思ったわけですが、全国から参加があり熱気に包まれた議論がありました。この熱気がまたこのサミットに続いてくれることを願います。

これから十分な議論がされると思われま

2. 前回開催地・長野からの報告

(上山卓)

さて、これからプログラムに沿って進行していくわけですが、早速間違いがありまして、次は、「関西路地サミット報告」ではなくて「前回開催地・長野からの報告」となります。それでは前回路地サミットの長野から、その後の動きなどを報告して頂きます。ISHIKAWA 地域文化企画室代表・全国路地サミット IN 長野事務局長の石川さま、よろしくお願いします。

(石川利江)

こんにちは。ちょうど1年前の10月25日と26日に、長野で路地サミットを開催させて頂きました。この会場に昨年の長野サミットに参加された方はどのくらいおられるのでしょうか。ちょっと手を挙げて頂きますでしょうか。

(会場)

～挙手

(石川利江)

あっ。やはり少ないですね。



長野市には善光寺という大きな寺がありまして、その寺が北にあるとすると、真田十万石の松代という小さな城下町が南にあります。この二つは夫々観光地で、これまであまり交流がなかったのですが、去年は、善光寺界限や松代界限の、まちづくり系や文化・芸術系などに関するNPOやそのほか活動団体のほとんど全部を、中には何で路地なのという組織もありましたが、実行委員会に参加してもらいました。その意味では路地サミットを逆に地域のネットワークづくりのために利用させていただき、よい機会となりました。

一日目の午前中のまち歩きは善光寺界限で行い128名の参加、二日目のまち歩きは松代界限で62名の参加、そして一日目午後のフォーラムは147名と参加で、思いがけず大勢の参加でした。長野サミットのさらに一年前に、転校生さよならあなた、という大林のぶひこ監督の映画の撮影がありました。それが路地を中心に行われましたが、その時にボランティアをやっていた若い人なども実行委員会に加わり、多種多様な人たちによって長野サミットが行われました。

その後、私にとってすごくよかったこととしては、今年4月の4・5日に善光寺の御開帳にあわせて、アフターサミットといって、分科会のようなものが開催されました。長野サミットのときにまち歩きされた方々を中心に、地域のよい点や問題点を二日間にわたって、善光寺界限と松代界限について議論をし、課題を整理しました。これに地元の方とさらに交流を深めることができました。

そしてその後の活動としましては、直接路地というのではないのですが、地域のもっとも細かい所まで見ていこうということで、小さな勉強会ですが、月に一度行っています。そしてこの結果をいかし、来年の5月頃になにかやりたいなと思っています。今はこういう形で、若いグループを育てているとってはおこがましいのですが、そういったメンバーに集まってもらって企画委員会を立ち上げて30代くらいを中心に、信州大学などいろいろな方が関わって、勉強会をおこなっています。

ということで現在は、このような状況にあります。またどうぞ、長野にお出かけください。

3. 関西路地サミット報告

(上山卓)

ありがとうございました。

それでは続きまして、プログラムでは一つ戻り、2番の関西路地サミット報告に入ります。さきほど委員長から話がありましたように、今年6月に関西圏の事例を中心に、路地を生かしたまちづくり手法を検討しました。その結果を、関西路地サミット事務局のスタジオ・カタリストの松原より報告させます。

(松原永季)

みなさんこんにちは。全国路地サミット事務局の松原です。

今年6月、全国にさきがけて関西で路地サミットを開催しました。ここでは震災復興したこともあって、とくにまちづくりの事業手法にスポットをあてて議論をしました。その結果を報告させていただきます。

当日は、神戸まちづくりセンターというところを会場にして開催させていただきました。参加頂いたのは約40名の皆さまです。最初は関西圏だけの参加と思っていましたが、鳥取の方ですとか、九州の方ですとか、熊本などからも参加があり、思いのほかたくさんの方が、ご関心を持っておられることが分かりました。

議論した結果をキーワードで整理しました。類型化とはどういうことか、京都の細街路を計算したら3,300本ある、路地の情緒をどうとらえるべきか、住民の思い入れが重要ではないかなど、いろいろなご意見を頂きました。



発表は、京都の祇園・東山での調査事例、神戸の様々な細街路の事例、そして大阪の法善寺横丁の事例を中心に報告を頂きました。ただし会場からもたくさんきて頂き、大阪の空堀や別府の浜脇の話、さらには鳥取の田後という漁村集落の話もありました。

そのような中でどのような意見が出てきたかということですが、印象に残ったのは京都市における類型化の指標であり、歴史的細街路、一般的細街路、もっと安全性が問題であるとする危険細街路に分けて整理し研究されていました。このように路地には色々バリエーションがあります。制度的にきちんと取り上げるためには、類型化する必要があるというものでした。その中で私が印象的であったのはキーワードとして、お金を生み出す路地と生活のための路地の2種類があるという提示を頂きました。観光地や商業地にある路地と一般の暮らしの中にある路地とは異なった背景があるというものです。京都の方からご報告頂いたのは、お金を生み出す路地は全体の僅か数パーセントに過ぎないのだということが統計的な調査の中から分かったというものでした。すなわち重要になりますのは、京都の累計でいいますと、一般細街路と危険細街路のこの2つに対するまちづくりの手法をもっともっと開発していくことが、関西路地サミットにおける大きなポイントの1つに取り上げられました。

そして京都で設定された路地のまちの評価指標に対する必要性が、色々考えられるのではないかということが出てきました。例えば明確で分かりやすくそして街区レベルで安全だというのが評価指標になるのではないかということでした。1つは市民にとって分かりやすいということ、もう1つは単に建物1つということではなく街区レベルで安全性を考えるべき、つまり街区レベルで安全性がどういう意味をもっているのか、性能評価が必要ではないかというものでした。

その中で残すべき路地とそうでないものがあるのではないかということが出てきました。なんでもかんでも残せば良いというのではなく、きちんと区別すべきという話でした。

ほかには、空き家をいかに活用するかとか、また、神戸という特性から震災を受けた路地の前にある空き地をもっと活用すべきなどの話もありました。そしてそこから更に踏み出して減築つまり密集しているところで建物を減らして、空き地を公園化するなどして街区全体の性能をあげていくということを考えていったらどうかという話がありました。

ということで、短時間で概要しかお伝えできませんでしたが関西路地サミットの報告とさせて頂き、この後の類型による議論紹介につなげていきたいと思えます。どうもありがとうございました。

4. 基調報告『路地を生かしたまちづくりの現在』

(上山卓)

ありがとうございました。

それでは続きまして4番目の基調報告として、路地を生かしたまちづくりの現在を、全国路地のまち連絡協議会世話人の木村昇郁さんから話をさせて頂きます。

(木村昇郁)

こんにちは、全国路地のまち連絡協議会事務局の木村です。どうぞよろしくお願いいたします。

全国路地サミットは今から7年前、その隅に座っておられる今井さんが、向島のとあるイベントのときに、路地が重要な全国の路地を集めてサミットをやるうと言われたのが始まりです。そして1年後に事務局をつくらうということで、全国路地のまち連絡協議会ができました。



自分のまちにはすばらしい路地があるとか、路地は日本の一つの美しい都市景観である、残していこうというのが、この会でございます。

写真(パワポ)は東京神楽坂の路地ですが、前面に路地をこわして超高層ビルが建っています。こうならないよう路地の風情を何とか残していこうというのがこの会の趣旨です。そしてサミットとは、そうした路地を全国にアピールをしていこうという年に一度の大きなイベントです。

それで全国路地のまち連絡協議会が何をやっているかと申しますと、まず、全国の路地のまちの事例を集めましょう、それからホームページをつくって路地情報を発信しましょう、会員を集めてメーリングリストをつくって会員相互間の路地情報交換をしましょう、そして年に1回サミットをやりましょう、などを行っています。

ということで第1回路地サミットは東京の北区十条で行いました。2回目は大阪の空堀で行いました。空堀からは本日、マスコミの方や空堀クラブのメンバーがいらしています。3回目は長野の諏訪、4回目は静岡の新居、浜名湖の西側にある町です。そして5回目、去年は先ほど石川さんからご報告頂きましたが、長野の善光寺表参道と松代でした。そして今年は神戸、来年はなんと新潟で、そして再来年はなぜか？でして、2012年は別府で、2012年に停年退職するからその年にやらせろという人がいます。それでその再来年ですが2011年末に東京スカイツリーができるので、足元の向島で出来るのではないかと思います。思っていますがこの会場には向島の方はいないですね。

そのほか、路地園芸推進プロジェクトがあります。路地探検があります。これは歩いて飲んで帰るだけのものです。また、路地百選がありますが、いつでも応募を受け付けています。それから今年から始まったものに路地のまちのワークショップ～路地 S.T.(ロジスタ)があります。

それではこれから路地を生かした市民の取り組みを紹介します。

まず、奥の方で寺田さんという人が間違っただけを言うなよとらんでいます。花街の風情を誇る神楽坂でございます。何年か前にNPO法人粋なまちづくり倶楽部ができて、粋な建築と住まい支援委員会、勝手に建築コンテスト、アーカイブズチームなど、まあいろいろなことをやってくれます。私の会社はこのはずれにあり、この会に引きずり込まれましたが、なるべく近寄らないようにしています。とにかくすごい活動が。それで毎年、連続路地シンポジウムというのをやっています。東大の西村先生がファシリテーターというか中心になってやられています。最近では新潟の村上とタイアップして黒堀プロジェクトをやられています。そして今神楽坂ではまち歩きをコンシェルジェしようということで、普段は着物でコンシェルジェ、夏は浴衣でコンシェルジェということでやっております。これがなんかすごい人気になっています。この写真はちょうど今ですか、まち飛びフェスタといって、神楽坂全体で文化祭をやっています。真ん中の写真は坂にお絵かきということで、これ何mくらいあるのでしょうか。福井さんどうですか。

(福井清一郎)

800m

(木村昇郁)

坂に紙をだーっと800mならべで、絵をかけて描いていよいよというイベントです。次のこの地図は、着物(浴衣)コンシェルジェマップで、協賛店を集めて、コンシェルジェと一緒に店をまわると特典があるというものです。この絵は去年のものですが、神楽坂のまちの中に伝統芸能をおもちの方が結構いらっしゃるため、そういう人を集めてやったイベントです。



次は、NPO法人向島学会です。向島は長田と一緒に木造の密集市街地であります。これは鳩のまちという所ですが、近いものを感じられるのではないのでしょうか。防災都市づくりという東京都のお金が入りまして、写真の方ですが山本さんと言いまして、もと都市計画コンサルタントですが、向島のまちづくりに入って大学

の先生になってしまいました。

最初にあるのが、これは路地尊というのですが、昔は火消し桶をモチーフにしたものですが、この下に雨水タンクがあります。そして隣の家の屋根から雨水が雨どいを通して水をここにため、普段は水やりなどに使っています。実際どれだけ効果があるかわかりませんが、消火栓のかわりをしています。

防災まちづくりといえば、西の真野、東の京島ということになりますが、で、この向島は、昨年 NPO 法人化しましたが、今は防災からアートに移っています。大阪の空堀さんもアートで頑張っておられますが、色々な取り組みをおこなっています。写真は長屋ですが、アーティストが住んで自分の家をアートにしてしまった。右上はなにをやっているのか不思議に思われるでしょうが、電柱のまわりに黄色いものが落ちていますが、オレンジ系のものをばらまいて、これがアートだということらしいです。向島は2000年に向島博覧会を開催し、この翌年からアートロジイをはじめているということです。向島は都心から10～15分の距離でかなり便利で、かつ家賃はすごく安いので、こうしたアートが住むようになったということです。右下は路地琴といいまして、水琴窟です。で、真ん中が小ぐまカフェといって空き店舗を活用したギャラリーです。ここはご夫婦で運営されていて、昼はギャラリー、夜はみんなの会合の場所となっています。

次は空堀ですが、今日は空堀の方がおられますので飛ばそうかなと思っています。変なことを言うと怒られそうです。それで簡単にお話しします。もとは空堀地区 HOPE ゾーン協議会から始まって、今は、からほり倶楽部さんなど色々なプレイヤーがおられます。代表的なのは、からほり倶楽部さんの町家改造ショップ「錬」、それから長屋改造ショップ「惣」ですね。これはすごいですね。ようはオーナーからサブリースしているようなものですね。きちんとお金のことも考えてやられているわけです。それから何故か向島と同じようなことをやられています。水琴窟ですね。すみません、これはホームページから無断でとったものです。

それでは次に東京にもどり、これは北区十条ですね。ここは風情も何もないただの生活の路地があるだけです。消防車がうつつていますが、路地が多いので消防車が入るかどうかを、消防署の協力で実験しようということになった分けです。たまたま運転士が下手だった。地元がいいことをやってくれた分けです。3回くらい切り返しをやっていました。そのような中で十条あすみの会という、十条に安全に住めるまちということで、あ・す・みという会ができました。防災・防犯ボランティアです。この会が中心となって、右上の写真ですが、体育館で避難所宿泊体験を行いました。最初は大人だけで酒を飲もうと思っていたのですが、これは面白いということで子ども達も参加して、大人は隅っこでこそそと酒を飲んでいました。3月の実施でとにかく寒い分けです。また背中が痛いわけです。という分けでやはり避難はしたくないなと痛切に感じました。それからまちワークin十条ということで、ワークショップがあります。また、十條遊縁市というのがあって、これはまちづくりをして行こうということを広くアピールするイベントです。この写真がその内容ですが、寒いのに駅前で青空シンポジウムをやりました。これは食い倒れキャラバンといって、ワンコインで、商店街をまわって買い食いしたり飲んだりするイベントです。

次は、さきほど紹介した路地 S.T.(ロジスタ)です。今年初めてで第1回を埼玉県小鹿野町で行いました。小鹿野町は歌舞伎、とくに子ども歌舞伎が有名で、大人は要らないという分けです。この町から是非路地サミットをやらせてくれと言われた分けですが、今年は神戸が決まっているから勘弁してということで、第1回路地 S.T.(ロジスタ)になりました。

それからこれは路地をつくってしまった例です。八戸ですね。八戸横丁連絡協議会ということで、8つの横丁があって、そのうち、みろく横丁、八戸昭和通りでは、実際どういうところが私行ったことがないのでわかりませんが、屋台を並べて、路地をつくってしまったというものです。路地をつくった例では、そのほか帯広市の北の屋台、それから黒塚が好きなのですね。東京駅の地下飲食街には黒塚横丁があります。

もっとすごいのがあります。これは長野県松本市ナワテ通りです。川沿いの16mか20mかの幅の都市計画道路の上に、どう見ても建物ですよ、これは、それを道路の上に建ててしまった分けです。屋台が両側にあって路地ができました。水道もガスも供給されています。毎年使用許可を与えている松本市はなんと

すばらしい自治体でしょう。

次に、先ほど石川さんからお話があった長野県善光寺表参道地区です。小路が結構あります。これを生かそうということで、歴史の町長野を紡ぐ会とか長野郷土史研究会ができて、何とかめぐりを、7が好きなのですね。七福神めぐり、七稲荷めぐり、七天神めぐりなどのまち歩きコースを設定して展開されています。会の方々が案内されています。映画・転校生さよならあなた、のロケ地めぐりのコースもあります。

長野市といえば中心市街地活性化ですが、TMOである(株)まちづくり長野が全国的に有名です。これは商屋と蔵の旧家を再生した、ぱていお大門です。蔵を集めて中に路地的空間をつくったものです。大盛況しているところです。これはもと百貨店ダイエーでしたっけ、これを改修し交流施設や直営食品スーパーにした、もんぜんぶら座です。

長野市でもう一つ、これは歴史のまち並みということで、松代地区です。エコール・ド・まつしろ倶楽部という組織があります。なんと会員数は900人。これだけでもすごいのですが、そのうちの半分しか活動していないとのこと。半分しかですよ。普通は1割ですよ。で、何を頑張っているかということ、これは、木遣りを披露されているところです。またこれは、箏の演奏ですね。これは、きもの縁遊会です。さきほど神楽坂で着物でコンシェルジェというものを紹介させて頂きましたが、こちらは着物で縁遊会です。写真中央の白の着物を着ておられる方は電通の方です。すごい美人です。

さらに長野ですが、これは諏訪市です。諏訪といえば諏訪大社が有名ですが、実はこのような小路がまち中の至るところにあります。諏訪では年に2回春と秋に、呑みあるきがあります。国道20号沿いの約700mの延長の中に5軒の造り酒屋があります。2,000円で枡を買って、その枡でもって飲み放題のイベントが行われます。国道20号というトラックがバンバン走っているところを、酔っぱらいが大勢フラフラするという、とっても楽しいイベントが行われます。諏訪の取り組みに、辻と小径景観づくり事業があります。平成18年度から続いている事業です。これによって、辻と小路を大切にしていましようということで、写真右下のブロック塀が左下の木塀のように変わります。右上写真はレロト看板ですが、新しく作ったものです。これを商店街に各商店につけましようという事業なわけです。

長野県でもう一つ、これは飯田市裏界線(りかいせん)地区です。昔大火があって、防火のため裏界線をつくりました。これは街区の背割りですね。これが界限性を生み出す路地のような風情になっているわけです。この中をまち歩きます。写真はモーニングウォークです。

次は愛知県碧南市の大浜地区の例です。ここでも歩いて暮らせる街づくりということで、まち歩きが盛んです。

まち歩きの最たるものは、長崎のさるく博です。長崎は路地のまちです。ここを参加者がさるきます。案内人は市民です。期間中1,000万人が参加しました。博覧会といってもパビリオンがある分けても有名人がいる分けではありません。まちなか全体がパビリオンとなる、まち歩き博覧会です。

次にこれは同じ長崎ですが、平戸という島です。NPO 法人都市計画家協会というところが、かつて都市計画キャラバンという活動をやっていましたが、その時の取り組みです。これは小径マップです。こんないい小径があるよという路を取材して地図にしたものです。もう一つこれはマイスターマップです。あそこの団子がおいしいよとか、店の建物がよいとか、そういったところをマイスターとして市民が選ぶ分けです。普通は商店街自身が商店街のマップをつくる分けですが、そうではなくて、市民がマイスターを選んで地図にする分けです。そして選んだお店に突然行って、あなたはマイスターですと勝手に表彰し、地図をあげるわけです。

マップづくりというと、新潟です。(会場の)池田さん間に合いましたか。小路めぐりマップというものを一昨年ですかはじめておられます。先ず右上の写真のように小路案内板ができ、そしてマップができました。左下に子どもが写っていますけれども、子ども対象としたスタンプラリーをやりました。右下はエコバッグですけれども、これは今年はじめた試みですが、バッグに小路のイラストが入っております。それで、このエコバック

を持って商店街に行くと、と20～30店で特典があるということです。

30年くらい前ですか、まちの風景を切り絵にして、街路灯に設置した例があります。東京は谷中銀座商店街です。これは非常に受けました。それで街路灯が老朽化したため取り換えをしようとしたらお金がなくてできなかった。それで切り絵を壁にはったということです。

歴史を生かした例では、静岡県新居町があります。ここは全国で唯一江戸時代の関所が残っている町として有名です。で、この関所をキーワードにまちづくりをしようということで路地とは関係ありません。路地とは関係ありませんが、路地サミットをやらせてくれとなり、やりました。で、路地はまち中にたくさんあります。小路(しょうな)といいます。この写真は、江戸時代の町割りがそのまま残っているものです。で、これをやったおかげで、先ほどの関所まちづくりに国交省からお金がつきました。ちゃんと頑張っているじゃないかということです。このように路地サミットはそれなりの役割を果たしている分けです。

そのほか歴史的資産の継承ということでは、この左写真は、備中高梁の小路名板です。さきほどの新潟と同じですね。通りの一つひとつに小路名の由来板をつけて、掘り起こしをしていく分けです。中央は、岡山県新見市です。三味線横丁です。大西さんという印刷屋の社長さんが、金持ちなのですね。料亭を買い取った分けです。ここに大西さんはおられませんよね。買い取って保存活動されています。自分で三味線横丁と名前をつけてしまいました。この入口に路地百選候補という、ご丁寧に看板までつけておられます。それから右の写真は、島根県的美保関の青畳通りです。各家の由来を板にしるして軒先に掲げておきます。それで、小路めぐりを楽しむ環境づくりを行っている分けです。

以上がソフト的な事例です。ここからは法的取り組みについて話をします。サーッといきます。

路地といえば小幅員ですが、4m未満は消えゆく運命にあります。何故かといいますと、建築基準法第42条に、建物は幅員4m以上の道路に面しなければならないという規定があるからです。では、それを突破する方策に何があるだろうかということです。まず、同じ建築基準法ですが、第86条の第1項に一団地があります。ここは道路ではないですよ通路ですよということです。次に連担建築物、これは第86条の第2項で、これも似たようなものです。それから3項道路があります。建築基準法第42条第3項ですね。がけ地など地形上やむをえない所で、幅員4m以上確保できない場合というものです。これ最近では国交省の運用が柔らかくなりまして、歴史的路地の保全など色々な形で使えるようになりました。それから43条但し書きがあります。かといっても道がせまいということは大抵、敷地もせまいということで、建て替えが中々出来ないわけです。どんどん住む人もいなくなって、まちが消えていくという所もあります。で、そういう時に、もう1つ街並み誘導地区計画というものがあまして、壁面の位置と高さの最高限度そのほか色々ありますが、そういったものを定めると道路斜線を取っ払うことができます。そうすると狭い敷地でも有効な建物が建てられるようになります。

で、こういうものを組み合わせた取り組みがあっちこっちでされております。で、事例のベースはさきほど紹介のあった関西路地サミットの時の資料などを中心としておりますが、まず神戸市駒ヶ林です。これは3項道路と43条但し書き、それから壁面の規制などを使っています。これは京都の祇園南です。これは街並み誘導型地区計画に似たような手を使っています。それから京都袋地があります。これは月島です。実はこれは、こうした取り組みの最初だと思います。最初は86条第1項の一団地を使って、路地に面している人のハンコをもらいに行ったのですが、中々大変だということで、現在は86条はやめて、3項道路を指定して街並み誘導型地区計画を入れたということです。次はみなさんよくご存じの法善寺横丁です。それから荒川区近隣まちづくり推進制度です。で最後に、もう一度神楽坂を紹介します。神楽坂では3項道路も一団地もやっていません。で何をやっているかという、建築基準法で建物を建てる時、道路から後退すると道路の反対側が同じだけ向こうにしてくれるという緩和規定があります。道路斜線です。これをやられちゃうと、右の写真のように2階建ての街並みに、5階建ての飲食店が建ってしまう分けです。そうすると路地が広がるのに加えて高い建物まで建ってしまう。こうすると神楽坂の風情がなくなってしまうということで、建築規制線というものを地区計画の中に定めて、壁面の後退という緩和規定をないものにしてしまうという、強引な地区計

画をやって、写真のかくれんぼ横丁を守ろうという活動をしているということです。

最後に、路地のまち連絡協議会は会費なしでやっています。ということで収入がございません。この建物の1階に司波さんという世話人が(路地からのまちづくり～学芸出版社)売っています。20冊ほど持ち込んでいます。どうか買ってやってください。今日私が報告したような内容がこの中に書かれています。

以上です。

5. 全国路地のまち活動報告

5 - 1. 大阪市法善寺横丁地区(商業中心型)

『元の道幅を保って復興を果たした経験から』

(上山卓)

今の木村さんの報告で、全国に色々な路地があり、そこで色々なまちづくりが展開していることが改めて分かりました。いまほど木村さんが紹介されましたこの本ですが、東大の西村先生が編集され、色々な地区の路地まちづくりの事例が掲載されております。ちなみに定価が3,000円で消費税ということですが、これを消費税なしで販売されています。本日は前田さんもいらしています。このあと休憩の時間などに、下に行って頂いて購入頂けたらと思います。

それでは5番目、ここまで一気に行ってしまいますので、もう少しお付き合いください。全国路地のまち活動報告ということで、最初に報告者の方、前にお願います。さきほど関西路地サミットの概要報告がありましたが、この中で大きな柱としてお金を生む路地とそうでない暮らしの中の路地があるということでした。やや強引ではありますが、生活の違いなりつくり方の違いなどがあるという議論をしました。で、今回はそれをもとに大きく4つに分けて、まず商業中心型、それから商業・生活複合型、そして生活中心ということで、神戸もそうなんですけど地形の違いから、生活中心・平坦地型と、生活中心・斜面地型という4つに類型しました。類型そのものがどうかということはありませんが、一つの問題提起という形で、話を進めていきたいと思えます。それで今から夫々15分ほどお話をして頂きます。そしてその後に分科会がありまして、夫々のグループに分かれて更に議論を深めていくという場を設定しております。というのも15分で話をというのは到底無理なので、その後のポスターセッションも含めて話を進めてまいります。そしてその後、こちらに集まり頂き改めてご報告頂くということにしたいと思えます。

ということで最初は、大阪市法善寺横丁地区(商業中心型)、元の道幅を保って復興を果たした経験からということで、まちづくりコーディネーター、戎橋筋商店街事業統括マネージャーの山本英夫さん、よろしくお願います。

(山本英夫)

そしたら15分ということで話をします。私ももとはコンサルでございまして、商店街に呼ばれまして、商店街に常駐しながらフリーな活動をしています。法善寺については完全にボランティアな活動でございまして、で、ボランティアでないと、とてもではないができないという大変な地域でありましたが、私とハシヅメシンヤさんという、今は大阪府立大学に行かれています、この二人が表に出ないように専門委員ということでお手伝いをさせて頂きました。神戸の震災復興のノウハウが数多く含まれておまして、このことを地域のみなさんにお話し申し上げています。



それでは法善寺横丁ですが、まず場所は大阪のミナミにあります。これが(この地図では)なんばシティで、高島屋です。これが約400年前につくられた道頓堀で、そのミナミに、私がお手伝いしている戎橋筋商店街というのがあって、その真横に実はあるのですが、かつて道頓堀に芝居小屋があったのですが、今はありませんがその境界にあたります。法善寺というお寺の境内地になります。全部お寺の借地です。17世紀に1630年代に、で、ちょうど道頓堀川ができるのが1615年ですけども、1630年代にこのお寺が引っ越してきました、その頃はこの千日前は死刑場、刑場だった分けです。でそこにたくさん人が集まって、ようは墓参りというか、そういうまちであった分けで、千日回向という千日ごとにお参りするというお寺としてありまして、そのお寺に江戸時代はまだ露店ができるという程度だったのですが、それが明治時代になりますと刑場がなくなりまして、土地の処分のようなものが行われていきます。その頃はまだ伽藍がありましてお堂がありました。本なんかをそこを買う分けでございますけれど、そして明治から大正にかけて境内地に本格的に店がはりつきだします。その頃は店よりも寄席が有名でして、2つの寄席がありました。そして吉本が買い取りまして、そこで漫才をやるようになります。有名なエンタツ・アチャコという漫才師がありますが、そういう場所になります。

その後いろいろ切り売りのようになされ、40店舗くらいの飲食店街になります。そして昭和15年に夫婦善哉で全国区に出ていく分けですが、昭和30年代になるとこれを映画化して、森繁久彌なんかが出てきて更に有名になります。そうすると、ここで商売をしたいという人が増え始め、飲食店のブランド化が進みます。けどもともとは安く飲めるところで、芝居裏でちょっと飲むという感じのサロンであった分けです。有名な歌舞伎俳優さんや、松竹の方々がみんな飲みにくると、そういう意味でも業界人や文化人が集まるサロンであったのです。これが法善寺横丁の歴史です。

で、この姿、通られた方は分かると思いますが、焼ける前は2.6mの道がありました。横丁といっても2本の道がありまして、地元では、北は法善寺横丁、南は参道といいます。ただ皆さんは一体的に法善寺横丁と呼んでおられます。この写真の正弁丹吾亭というお店有名なのですが、ここだけです戦前からあるのは、ほかは殆どが代替わりしています。この隣々のお店が最近、ミシュランの三つ星になってしまいました。

ここを大坂の人たちが守ろうとした分けです。この下がお不動さんです。戦争で焼けまして西を向いているお不動さんというのは大阪で3つしかないらしいのですが、そのうちの1つで、ここに水をかけてお参りするというのが定着して、水掛不動尊ということで、大坂の観光地になっている場所でございます。浄土宗のお寺です。以上が全体の概要です。

次にまいります。事故が起きましたのが、平成14年の9月ですね。旧中座です。本日協賛されていますが、その大坂ガスさんが当事者です。ただし復興で大坂ガスさんがものすごく活躍されました。で、旧中座で火事になって最初に燃えたのが、これが境内地ですがその一角になります。

こちらに幅員4.5mの市道があります。逆の方に並んで幅員7.2mの千日前通りがあります。その間に両道路を結ぶ形で横丁と参道が並行しています。というような所で、この中座が燃えたことによって、ここが類焼しました。で、そのあと復興が始まりましたが、また、ここで火事が発生しまして、内輪から発生してしまいました。もうどうしようもないなということでしたが、最初に燃えた時に私が呼ばれました。みんな喫茶店に集まっていたんですが、その時なにを考えたかということですけども、実は燃えているのですけれど、カキワリように前が残っているのですね。そうすると復旧できるのではないかと考えた分けです。それから復旧できませという先生もいたりして、で、僕が行って頼まれたのは、復旧するための署名活動をしたいのでそのための文章を考えてほしいということでした。でも、あきませんと、そないなことしたらえらいことになりますよ。特別扱いをしてもらえとは思ってはった分けですね。けどそうはいかない分けです。これ全部上から、ヘリコプターで毎うつしていたのですね。何も燃えて何も無いのがもう分かっている分けです。こんな所とてもではないが復旧というのはできないし、自ら署名活動なんかはやらない方がいいということを申し上げました。まわりから助けてもらうということならいいのですけれど、そうでないので、ちゃんと委員会をつくって、そこでどういう風に復興していくかを考えて進めるべきと言いました。そこで復興委員会をつくりました。で、その時に

火事を出した大坂ガスさんと建物をやっておられる竹中工務店というのがおられましたので、そこでチームをつくってもらいました。で私が地元の復興委員会をお手伝いしまして、ハシヅメシンヤさんが大阪市並びに企業の窓口をやるという2人3脚で進めて参りました。で、この道幅を広げるかどうかという話になりました。2.6mの道幅を残したい、さきほどから聞いて頂いている歴史がこの道幅にしみ込んでいる中座と一緒に再開発するという話もありました。とにかく色々な案が出た分けですけれども、守りたいのは何かを皆さんで議論して頂いた分けですが、それがこの道幅だったんですね。この道幅がよいということを科学的にのべるというのではなく、相合傘で通れるまた誰かがアーケードをつけた方が良いのではとありましたが、それでは月が見えないということで、もう文化的環境になっている分けです。結論からいうとこの道幅小さいのですね。間口2.5mとか、奥行なんか何mもあらへんというような所で、これ冗談ではないですが、お寿司屋さんなんです、建て替えて狭くなったら包丁をひく手が壁にあたると、そのような小さな所で商売をし、カウンター越しにお客さんと接客しているというそういう文化ですから、その機能をこわしてしまったら話にならへんということになりました。したがって、この道幅だけに景観と申し上げても、もうごちゃごちゃしている分けです。それを保全すべきという分けでなくて、飲食店さん夫々が醸し出し味わいみたいなものを、その機能をこわしたら出てこないわけですから、一刻も早くこの状態を復元するということが求められたわけですから、そうすると答えというものが、他に正がなかったんですね。

これが復興委員会から出てきた案ですが、3つありますが、その1つの42条3項道路は容積率が足りないし、普通に建て替えたら話にならない。ということで連担制度しかなかった分けです。ただしこれは住宅地が対象なのでこんな所でやれるのかという話がありましたが、法善寺横丁を何とかしなければならぬということで、大阪市の中にプロジェクトチームをつくられて、地元がどれだけまとまっているかを横目で見ながら、最終的には商業地の特例ですね。法善寺オンリーのやり方をするということになりました。で、ちょっと組み立てを言いますと、この境内地の、この横丁に面した背割りのある部分だけが連担区域です。で接道する道路は、こっちの道路とこっちの道路に接しているという形にしました。で、真ん中のこれは2項道路だったのですが、これを廃道、廃止道路にして、通路扱い、で、2つ面白い小路があるのですけれども、この路地も通路として保全しなさいということになりました。でここを一体の連担区域にして、容積率は240%、通路は2.7m、建物については10m以下、かつ3階についてはセットバックしなさい、バルコニーをもうけなさい、そして2方向避難を確保しましょう、で、どこから逃げても分かるように標示をしなさい、ということの一つの枠組みにした分けです。すべて耐火建築物ということなんです、竹中工務店はすごいなあと思いました。木材の鉄骨があるのですね。なんかものすごい柱で強度のあるやつを使って、1こ1こ造っていかればよかったけれども、3点セットの連担制度ということで、連担区域の全員同意、そして道路を廃止して通路扱い、さらに建築協定、で建築協定についてはこの風情あるまち並みを守ろうということで風俗営業などはやらないなどいくつか決めてあります。そしてこれをまちづくり憲章にしました。

で、これは今の姿なんですけれど、要はまちがつるんとしてしまいました。仕方ないですね。建て替えるとしてもつるんとしてしまいます。そこで竹中さんが工夫しています。この正面のごとごとは復元しているんですね。しかし実はこれは看板だといいはった。無理やりですね。燃えない木を使っていますが、看板だと、そういう解釈でもって色々やっておられます。で、このように細やかな表情をつくっていくということで、色々な工夫を、でこぼこをつくる、凹凸をつくる、そしてみんなが利用していくということですが、風鈴をつくったりちょっとずつ色々なことをやったりしておられます。で、このように取り組んでいき、風情を出していく、ようは、汚していくというのをやっておられます。

あとの取り組みとしては、火事の前からあったのですが、町内会がありまして、小路を広げまして、消火栓をつくって、定期的に防災訓練をやられています。これもセットでやれと建築協定に書かれています。このことが実は周辺に大分波及してしまっていて、法善寺につながる商店街で、こういう参道をつくるなどの動きになっています。最後にミナミ全体の中の法善寺というのは、路地にすぎないものではなくて、ミナミで生きていくための重要なものと捉えられています。で、もちろん29万人の署名があってこういうまちが残ったのですけれども、徹底的に歩行者のまちに、それでミナミが生き抜いていくしかない今舵を切りなおして、

法善寺並びに周辺がネットワークをどんどんつくっていったという状況になっています。すいません。ちょっとオーバーしましたが、以上です。

5 - 2 . 新宿区神楽坂地区 (商業・生活複合型)

『神楽坂の路地文化』

(上山卓)

ありがとうございました。冒頭でお話するのを忘れていましたが、今回の報告につきましては、質問は各教室に移った時点で、各講師の方がおられますので、そこでして頂くということでお願いいたします。ということでこの場は報告を頂くことにします。

それでは続きまして、商業・生活複合型になります。東京都新宿区神楽坂で、神楽坂の路地文化ということで、神楽坂通り商店会会長・神楽坂まちづくりの会、福井清一郎さんにご報告をして頂きます。よろしくお願いします。

(福井清一郎)

ただいまご紹介頂きました福井でございます。今日のスピーカーでは、僕だけが素人なのでよろしくお願いします。

写真は神楽坂のシンボリックなお寺でして、善国寺という日蓮宗のお寺です。下にあるのが今年賞を受けた、神楽坂を代表する路地空間の一つということで、これをつくってくれたのがうちの煎餅屋です。みなさん御存じだと思うのですが、神楽坂は、新宿は東京のど真ん中という言い方をしています。

そして山手線の中の飯田橋というのは、中央線の発祥の地でございます。そして先ほど木村さんがなぜ阿波踊りかといっていたのは、先ずこの牛込御門をつくったのが徳島であり、江戸幕府から命じられました。それで強引にこじつけまして神楽坂の阿波踊りをやっています。で、僕が子どもの時はここに毘沙門があって、毘沙門さま境内で盆踊りをやっていたのですが、商店街は坂下からあるのですが、商店街の上の方ばかり騒いでいてけしからんという表現が色々ございまして、阿波踊りを取り入れてまちを練り歩くという形になりました。で、もともと毘沙門さまというのは江戸城内にありまして、開山400年なのですけれども、この神楽坂という土地にきて200年になります。で、この真ん前にうちがあります。で、行元寺というのは室町時代からのお寺でございまして、で、この参道というのが一番古い説であります。

で、これは粋なまちづくり倶楽部で、先ほど木村さんが写したものと同じですが、逆になりまして、ここがもとの牛込御門で、こっちが飯田橋の駅になります。で、これが牛込堀で、飯田堀があったところを東京都の再開発事業で、大執行が決定された所だったんですけど、決定まで行って妥結したので、大執行は行われませんでした。で僕らのまちづくりはここから始まっており、一生懸命反対運動はしていました。これが(この写真が)神楽坂の通りです。今は神楽坂というのは東西線の神楽坂、これが大久保通りなのですが、で昔はここまでが神楽坂でしたが、昭和28年にここまで神楽坂になりました。商店街は坂下からここまでと、坂上のこの辺と2つございまして。で僕らの商店街は横はカウントしません。通りに面しているところだけが加盟の資格があります。

神楽坂の様々な表情ということで、これが先ほど説明しましたランドマーク的な毘沙門さまで、これは20年位前のまちづくりの商店街の動きの中でケヤキを植えましたが、そのずいぶん育ったケヤキです。で、これもそうですね。建て直しがだんだん進んできて、いまこう見ていただいているのは、僕らはセットバックは認めていません。まちづくり協定をむすびまして、セットフロントで壁面の並びを守るようにし、みんなで協定



しています。これは神楽坂の路地でうちの横なのですが、これもそうですね。これは戦前から続いている居酒屋さんで、夏でもお燗しか、日本酒のお燗しかだしません。そういうお店です。まだ七輪でやっています。これも路地の一つで、背景父上様で、りんごがころがった所ですね。ここは新宿区から第1回の景観賞をもらった所です。で、ここに書かれているように風情があって、この階段は石畳でごろごろして歩きにくいのですが、なんか雰囲気でもってみんなが喜んでいような感じがします。ちなみにここは、どっかの首相が三本指で捕まった所です。で、これは本書き旅館でして、小説を書いた人がいまして、今も山田洋次さんなんかここで執筆活動をしておられた分けです。

(この写真の)この辺の路地が僕は最も好きなのですが、向こうから見ると、このマンションの売りが、路地を大切にしようということで、これをつくって売っていました。そのときに、神楽坂住みたいところナンバーワンと表現されました。

これはビルの上から見た、路地境界を写した写真です。まだまだ横に入ると2項道路があって密集しています。これは神楽坂の途中から横にちょっと入った所なのですが、この建物は鉄筋ですが、これは木造です。壊している所ですが、こういう風に少しずつ乱開発というのですか、これも4階建ての鉄骨になる予定になっています。これは本田横丁という所で、この路面は街並み環境整備事業を商店街が取り入れて最後にやった場所なのですが、ここはうまくいって、まもなく建築計画が出始める場所です。ここは先ほどの飯田堀の、計画してできあがった都庁舎が入っている、で、その反対側の牛込堀はまだ水辺が残っているという所で、なんで四谷の方からお堀がずうっと、四谷、市ヶ谷、牛込、飯田堀があったのに、何でつぶしたのだということで、いまだに僕は元に戻せと考えています。

これもそうですね。これは神楽坂の花街で、見番の建物でまだ残っています。で僕らも一年に一回、芸者をあげて勉強会をやっています。

でこれは、神楽坂祭りで、毘沙門さまの境内に本部席を設けて、僕もいるんですけど、これは新宿区の中山区長で、おかげさまで今年38回を迎えることができました。でこの前の日に、前夜祭ではないですけども、神楽坂で阿波踊りというのも違和感があるので、20年位前から、2日間、ほおづき市を開催しています。ほおづき市の始まりは、最初は地元のテキヤを呼んで任せっぱなしでやっていたのですが、何年前か前に牛込警察の方から暴力団の資金源を育てるのかと言われ、では我々地元でやろうということで、いまは全部まちの店でやっています。これもそうですね。遠い所では浜松からも来ています。今年は土曜日に、地元の子もたちも定着しまして、子どもたちだけで、神楽坂境界の牛込地区の小学生、幼稚園、保育園あわせて1,000人以上が参加しました。

これは、まち飛びフェスタとあって、1階にチラシを置いていますが、商店街の活動ではないですが、商店街が後援となって、この(10月)17日から始まっています。で、最後の日(11月3日)が、坂にお絵描きということで、坂に800mのロール紙を敷いて、そこに自由に絵を描いてもらいます。この17日から3日までは、まちをあげてのイベントになります。これもその一環の中で、能ですか、それから生け花です。色々あります。

これは第1回景観大賞をもらった所の路地の料亭です。相続が発生しまして、この料亭を壊す前に、この前に黒い塀をたてて、拝啓父上様の撮影をした所です。そして相続が終わって売却されて、僕の嫌いな人が買ってくれました。で、4階建てにされちゃうんで僕はがっかりしているんですけども、金持っていないやですね。

それからこれは何故か、この会場に関係者がいるかも知れませんが、この間、地鎮祭をやったのですけれども、ここの理事長は僕に挨拶をしなかったのですね。顔もあわさなかったですね。で、僕は非常に怒っていますね。なぜ理科大がでてくるのかなと。といことで、色んなことがいま起きています。

これは、行元寺で大久保通りにあった土地を藤田が買収して建てた高層マンションです。神楽坂に大会社がくると何ですかという違和感がある建物です。これは14階建てのマンションですが、これもできました。

この写真は、僕らが2007年3月18日に、地元の小学校でまちづくりの会を開催しました。で、これからどうしようかと言ってた次の日に燃えてしまった所です。燃えたのは約100坪で、僕は非常にがっかりしました。で、これが火元のおにぎりやの婆さんなんですけれども、で、ボヤを何回も出していたので、いつかはこうなっちゃうんじゃないかと心配していたのですが、心配していた所に火事になってしまいました。で、できあがったのが、2項道路なので、10mひいて5階建てが建ちました。これも2項道路だったので、ひいて出来上がったものは何かつままない、4mに拡張されちゃって、何かつままないですね。これは木造なんですけど、後はそろってきて、つまらなくなりました。

やはり商店街の中ですから、スロット屋やパチンコ屋もあり、最近は少なくはなりますが、たまにスロットなんかができる真っ赤な店などが出てくる分けです。

飯田橋というのは文京区と千代田区と新宿区の重なっている所で、境にあって、われわれ3区の住民が動かないとだめだねという地域です。まちづくりについては色々な応援者がいるので、これが僕です。これが寺田さんです。日置さんです。色々な人がいます。こうした人でやっていっています。以上です。どうもありがとうございました。

5 - 3 . 神戸市駒ヶ林地区 (生活中心・平坦地型)

『漁村集落の路地を生かした近隣住環境計画』

(上山卓)

はい、どうもありがとうございます。続きまして、これから2地区は神戸の事例です。まず、神戸市駒ヶ林地区ということで生活中心・平坦地型。漁村集落の路地を生かした近隣住環境計画ということで、松原さんが報告します。

(松原永季)

事務局もやっています。スタヂオ・カタリストの松原です。

タイプでいうと生活中心で、あまりお金にならない路地です。いいかどうかは別として先ほど話のあった開発は来ないような所です。そのうちの前段部分として坂のない、平らなところを報告させていただきます。

まず、駒ヶ林地区の概要を説明させていただきます。地区はだいたい19ha、人口は3,000人くらい、世帯数は1,458世帯で高齢化率は30%を超えています。奈良・平安時代から大輪田泊の船繋所であったとても古い漁村集落です。路地が網の目のように構築されていて、住宅を中心に魚加工場や各種工場など、住宅と商業と工場が混在したまちです。お地蔵さんや古民家など景観資源はあるものの、色々なものが貼られたりして、あまり一体的な景観はないのかなというところで。で、一言で言うと、漁村集落の路地構成を残した高齢化の進んだ木造密集地域だということです。

で、色々な課題があります。狭小敷地、狭すぎる、で建て替えできへんとか、道がついてへん未接道敷地とか、多くは建て替え更新において大きな課題があり、また、震災後でまだたくさん空地があります。さらには地図混乱、公図がちゃんとしてえへんなども課題です。

場所は、この会場、旧二葉小学校から歩いて5分位です。あとで田中さんから報告がありますが斜面地型と異なるのは、とにもかくにも太い道路が100m角でグリッドができているという点です。戦後の神戸市のまちづくりの中で大きなグリッドができおります。その中での路地の話ということでございます。

まず、駒ヶ林町1丁目での路地を生かしたまちづくり事業です。これは幾つかのステップに分かれますが、



最初は、震災後空地の小公園化(スポット創生事業)です。震災後の空地を神戸市が借り上げ整備し、これを地域住民団体が維持・管理します。それで延焼防止や一時避難の効果があります。写真のようにもともとは建物があった所がつぶれて、そこで底地を神戸市さんが借り上げて整備し、地域で維持管理する。近所に花好きのおばちゃんがいる、一年中花が咲いています。

次のステップから路地の整備になります。私に関わらせて頂いたのはここからです。神戸市と私のような中間のもの、そして地域と三位一体で進めています。まず2項道路を、中心線を権利者みんなで確定し、そして神戸市さんが舗装し、埋設管や側溝を整備します。そして整備後は各権利者で維持・管理してくださいね、ということになっています。写真のように元々は権利者が勝手に舗装し道路幅も路面もでこぼこで、転んで怪我していたのを、この写真のようにきれいにしました。この道路の場合は、権利者さんで舗装面まで決めました。昔風の路地の土っぽい道がええということになり、このような道になりました。

このように路地の整備が1本目、2本目、3本目と進むうちに、その検討過程の中で望ましい路地のルールが出来ていました。幅は2.5m位がええのではないかと、先ほど法善寺横丁では相合傘で通れる道というのがございましたけれども、神戸の人は傘を持ってもしれ違える位がよいのではというのが値域の実感でした。仮に4m道路があったら、2.7mを確保し、残りを各自の判断で鉢植えなんかを置いても良いのではないかと風になってきました。これはあとで見事に合致するのですが、建築基準法が制定される以前に、車がまだ普及せいへん時代にできた路地の道幅とほぼ一緒の9尺、一間半、2.7mであると。車のことを考えず、人のことだけ考えると大体これがいい寸法かなと私はこの時感じました。

駒ヶ林というのはこういう街区ですけども、色々整備が進んでまいります。まずここでスポット創生事業で空き地が公園になりました。そしてここが細街路整備事業できれいな路地になりました。で今度はこの路地がこのようになりました。で、たまたま何ですが街区のど真ん中に、もともと共同水道があったのですが、そこがオープンスペースになっている。こうしたことを中心に色々な路地のまちづくりが進んできたという分けです。

そういう中で、近隣住環境計画というものを一緒に考えていきませんか、神戸市さんから呼びかけがありました。ではそれは何なんだ。神戸市民の住環境等をまもりそだてる条例第35条の2というのがあり、これによると、一定の区域において、所有者等の発意に基づき、地域の特性を踏まえた健全で快適な住環境等の保全及び育成を図るための計画。これを決めても構いませんよというもので、1.名称及び区域、2.住環境等に係る目標、3.区域内における建築物その他工作物及び道路の整備の方針及び計画というものを決めますが、どういうものか一口で言いますと、建築基準法の弾力的運用だということでございます。建築基準法の中には、特定行政庁、この辺でしたら神戸市さんになりますけれども、神戸市さんが決めてもかまへんよ。このへんはきめてもよいよという但し書きの緩和規定がございます。それを組み合わせて、あっちの法令何条とかこっちの何条とかを組み合わせて、もちよってその地域に適した総合的な弾力的運用というのが、この近隣住環境計画です。

では、駒ヶ林1丁目ではどのように考えたかですが、まず42条2項道路、それから42条3項道路、さきほど申し上げましたように、2m下がらんでええ、1.35mでええというものです。それから43条但し書き許可、そして46条壁面線の指定。こうしたものを組み合わせて道路の位置づけを行い、地域にあった計画をしていこうということで考えていきました。ただし役所の方でも、コンサルの方でも、そういう計画は考えられるかも知れませんが、地域の人が使ってくれるかわからへん、むしろ地域の人たちが考え積み上げていかないといけないのではないかとということで、まず道路の位置づけについて検討を始めました。WSを行い、防災性と利便性を勘案して道路の幅員を検討しました。その中で、街区内で最低1本の4m道路があった方がええちゃうのじゃないかとなりました。この写真は検討している最中なんですけれども、みんな道幅を測りながら考えています。そうした結果、大きな街区がいくつかありますが、その中に1本位は4m幅くらいあった方がよいのでは、緊急車両のこともあるし、必要ではないかとなりました。そしてそれ以外は2.7mでええだろうということになりました。

では駒ヶ林1丁目の道路はどうなっているのか。青いのは建築基準法上の2項道路です。ところがオレンジ色で示された道路はなにか、これは建築基準法上の道路ではない路地なんです。この路地は先ほどの3項道路に指定する方法があったのですけれども、オレンジはもともと2項道路ですらなかったで、3項道路は使えない路地で、半分くらいそうなんです。で、繰り返しになりますが、3項道路は2項道路でないと使えない。そもそも2項道路ですらない道がそれをどうするのかということ色々考えたところでした。で、この近隣住環境計画の中では折り合いをつけるために、最終的にL字型に2項道路をつけましょうとなりました。もともとは十字型にして通したかったのですが、この部分が建築基準法の道路ですらないということで、ここだけL字型になりました。で、このオレンジ色はもともと2項道路だったので3項道路にして、2.7mでもええよという道路です。で、ここは道ですらなかったで、但し書き規定による空地だとしてました。こっちの道路も、道ですらなかったで43条但し書きによる空地にしましたが、ただし、ゲートになる大きな道に面しており、建て替えの時何も支障にならない所に関しては、壁面線指定をお願いしようということになりました。

緑色は、ここだけに接した敷地はありませんので、さらに2項道路でもないため、建築基準法上は不要なんです。たまたま神戸市さんが底地をもってはった公道なので、その道幅を守れるかなということになりました。こういう形で近隣住環境計画が定まりましたが、で、当初の考え方とはずれていますが、これでやっていると、地域の役員さんレベルではまとまって、今は権利者さんの間で順番に合意をとっていつている段階です。

ただですね。壁面線の指定をするなど本来そこまではする必要のないお願いを、お願いするというのは中々難しい所でございます。じっくりと腰をすえて、つきあって、最終的にいい成果につなげたいというのがプロセスであるということで、報告をさせて頂きました。

ちょっと一言付け加えさせて頂きますが、狭ければよいのかということでは決してありません。せまければそれだけ安全性がマイナスになるため、防災性能を高めていくことをしようと、例えば3項指定をしている所は、内装制限をかけて防災性能をアップさせよう、或いは、道路でないところは、壁面線指定等で空地を確保し安全性を目指して行こうということで、建物自体を少し防災性能をあげて、で、もう一つは地域の中の防災力に期待して、それと一体となって初めて、狭い道幅でも守れるという計画にして行こうということで進んでおります。

ということで、ちょっと早口になってしまいましたが、駒ヶ林1丁目の南部地区で進めていることを報告させて頂きました。どうもありがとうございました。

5 - 4 . 神戸市東垂水地区 (生活中心・斜面地型)

『幹線道路も区画道路もないまちの路地をどう生かすか？』

(上山卓)

どうもありがとうございました。それでは最後の活動報告ということで、生活中心・斜面地型ということで、当初は塩谷の話をするということだったのですが、隣の東垂水地区の、幹線道路も区画道路もないまちの路地をどう生かすか？ということで、都市調査計画事務所の田中さん、よろしくお願ひします。

(田中正人)

都市調査計画事務所の田中です。なぜ塩谷から東垂水に移ったかは申しにくいので後で聞いてください。4番目ということで、これまで法善寺さん、神楽坂さん、駒ヶ林さんということで、



かなりメジャーなところが出ましたが、最後は少し地味ではありますが、おそらく全国25,000haの密集市街地の多くは、この東垂水のような普通の住宅地だと思いますので、そのような視点で聞いて頂ければなあと思います。

たぶん東垂水地区にこられた方は少ないと思いますが、場所は神戸市の西側の、垂水区の、でも中では東よりの海岸沿いのエリアになります。急傾斜の多いところですよ。どんなまちかという、傾斜をしております、街なかに、随所にこうした階段があります。そして当然ながら擁壁がたくさん出てくるわけですね。そして地形的な制約から行き止まりというもののが数多く見られます。まちとしてはそんなに古い歴史があるわけではなく、だいたい昭和30年代から40年代にかけて、全国的にそうだったと思いますが、開発需要があったんですが、複雑な地形がある中で、どんな妥協点が見出されたかという、パッチワーク的な開発を進めていくというようなものであったかと考えられます。場当たりのミニ造成で、傾斜地を切り盛りしまして、ちょっとした崖地街区が生じ、また溜め池が点在していたのですが、そこを埋め立てて谷間の街区が生じました。その結果、繰り返しますが、このような傾斜地、階段、そして擁壁、そして行き止まりと、そうしたものが街の至る所に生じてきたわけですね。でもよく考えてみますと、パッチワークと申しまして、実はパッチとパッチは繋がっていないのですね。街区というものは形成されておりませんし、公道は殆どありません。それで、不思議な位置指定道路が多いんですね。不思議というのは幅員が2m位しかなくて、永遠に100mも200mも続いているような道が何故かたくさんあります。そしてもう一つ、不思議な公園もあります。後で説明します。

この図は、建築基準法の道路、公道だけの図ですが、黄色は道路に該当しないものです。さきほどの駒ヶ林でもあるということでしたが、こちらでも沢山あります。公道だけ抜き出しますとこのようになりまして、先ほどの駒ヶ林はだいたい100mグリッドで、街区がありますが、普通はこの街区の中にあるのが路地ですが、このあたり一帯路地があるということですね。さきほど不思議な公園があると申しましたが、ここにちゃんとした都市計画公園があるのですが、おかしいですよ。どこにも公道に接していない公園。さらに奇妙なことに、これは最近ある方に言われて気が付いたのですけれども、その公園、前は市住が建っていたんですね。道路に接していない所にどうやって市住を建てたのでしょうか。で、これは余談ではなくて普通ならあり得ない、あってはならないことが普通に行われ、あって良いのではという風になっています。で当然地元は、このような中でまちづくり活動、草根的な活動を行っています。

99年頃から、地区レベルのまち全体での防災活動が始まりまして、最近になって街区レベル、いや街区はありませんので、自治会レベルで、自治会単位のまちづくり、そして最近、そうした自治会を複数くっつけたような単位でまちづくりを展開されています。

で、これが全体の構想図ですが、これは後ほどポスターセッションのときにお話させていただきます。そして今の構想図の中で、重点的に整備をする路線というものを、重点路地というものを選定しております。その中でこれまで、2つの路線が完成しております。で、路地と申しまして斜面地なのでどちらも階段でございます。1つはこちらです。たった5段しかなかった階段が15段に。いかに蹴上げが大きかったかというのが分かりますが、これ写真だと分かりづらいのですが、山陽本線の滝の茶屋駅というこの地区の玄関口に直結するメインストリートです。この階段をおりて駅にいかれる重要な路線であったわけですね。これが1つ完成しました。みはらし階段という名前が公募によって決められました。で、明石海峡大橋が見えるきれいな場所になっています。ご覧になりたい方は明日のまち歩きに是非参加をしたいと思います。

もう1つ完成しています階段はこちらです。非常にまちまちで手すりもなく危険な階段であったわけですが、均一に昇りやすくなりました。おそらく、この会場にいらしている方の多くは前の方がええやないのとおっしゃられるでしょうが、で私もそう思わないわけではないですが、使っている人にとっては、できて大喜びです。先ほど法善寺さんの話で、汚していくと言う話がありましたが、中々いい表現だなと思ひまして、この階段を昔のように少しずつ汚していければいいなと思ひますが、どういう分けかいつまでもきれいなですね。

で、いくら5,000分の1の地図を眺めていてもきめ細かい対応はできないということで、自治会レベルの

活動が始まった分けですね。防災安全意識調査ということで、アンケートをやったり話あいをしたりする中でですね、いくつかのことが見えて来ました。これはアンケート結果の一部なのですが、老朽家屋に高齢単身者、もしくは高齢夫婦といった世帯がかなり多く住まいになっているということ、そして日常的な不安として火災のことを心配されている方が非常に多いということも分かりました。そして、できることならば路地を広げたいというご意見が、もしかして総論としての賛成ということにとどまるかもしれませんが、そういう意見があるということが分かってきました。それで街区単位のまちづくりの計画をたてまして、進めていこうとしている分けですが、いくら絵を描いてもそこに住んでいるのは70、80のおじいさんおばあさんたちな分けですね。20年後にこうなりますと言っても殆ど意味をなさない分けです。そこで周りのちょっとした課題解決もあわせてやっていこうということになり、スロープをつけたり、荒地地を花壇にしたり、隅切りを整備したり、側溝を整備したりしています。といったことを並行してやっています。

その中で1つ行き止まりの問題というのはやはり非常に大きいということで、これは1つの成果の報告になりますけれども、神戸市に、まちなか防災空地整備事業というものをつくって頂きまして、先ほどの駒ヶ林でスポット創生事業というのがありましたが、あれと非常に似通った仕組みです。ただ、こちらは空地をコミュニティスペースにするんじゃなくて、老朽家屋を除却するというのが本来の狙いです。で、このように倒壊寸前のアパートというものが散見されるわけです。つまり建て替えは殆どできない敷地ですし、方針は進まないわけですね。この中で、これは解体中ではなくて自然とここまで進んできた分けですけれども、隣のおばあさんがうちの方に倒れてこないかと心配だということで、解体を無事すませて、今は家庭菜園として、地域のコミュニティの方が団体をつくられて活用されています。

この効果は、1つは当然ながらアパート自体の危険性が排除されるということではありますが、もう1つは、これ、画面左手が行き止まりなのですが、そこに隙間ができることで多少とも延焼の危険性が低減されただろうと、もう1つ、これは奥に少し階段が見えるかと思いますが、最悪の場合、そこに抜けることができるようになったといったことがあげられます。こういったチマチマとしたこともやりながら、やはり将来的には全ての敷地で水平の方向避難というものをめざしたいということを考えている分けです。

手法としては前に書いてあり説明もあったかと思いますが、連担とか、近環とか、42条3項や、43条但し書きとか、街並み誘導型とかいくつかあるんですが、実態としては中々ですね。あれだけ道路でない道路ばかりの所では難しく、それをやったとしても街区の大きさが何百mという単位の中で、そういう制度で果たしていいんだろうかという気がしております。これぐらい階段と行き止まりがある分けですね。そして擁壁があると、これを2方向避難できるか、敷地のこちら側と向こう側に少なくともどちらかがふさがっていても、逃げられるかどうかという視点で見ますと、これだけの範囲では2方向避難はできなということが分かるわけです。それで、先ほどのような空地整備をしたり細街路整備をしたりして、また建物の耐震化を進めて、少しでも安全性を高めたいと考えている分けです。

既存制度をいかにフル活用しても、そこには基礎的な限界があるんだろうという風に思うわけです。それは繰り返しますが、路地しかないまちであって、傾斜や階段、行き止まりといった前提条件があります。そして未設道の敷地に建つ老朽家屋にお住まいになっている方は高齢者であるということなんですね。どうすればいいのかと、で、答えはないままに終わるんですけれども、まあ、少なくとも面整備とか細街路整備とか両極端ではない第3のものが要るだろうと思いますし、最近思いますのは、都市型の集団の移転事業みたいなものが考えられないかとイメージしております。

それと、もちろん将来像を描くということは重要なんですけれども、対処療法というのが実は重要ではないかと最近思っています。それをどれだけ掘り出せるか。この先10年20年なんとか平和に幸せに生きられればいいという人たちに対して、10年後20年後の計画というのは意味をなさない分けですから、できるだけ短期にできるような政策を数多くうっていくと。そんなものにどれだけ税金が投入できるかという問題がありますが、なんかそれが1つ実は、路地のまちを大きく変えるのではなく更新していく、何か1つのあり方ではないかなという気がしています。たとえば、これは東京都板橋区さんでやられている事例の2番煎じではあります

けれど、こういう狭い路地を進んでいきますとブロック塀で行き止まりになると、で塀の向こうは実は駐車場であったと。であるならばですね、緊急時通り抜け確立整備手法、と勝手に付けた名前で統一した名称はありませんけれども、こういう所に、マンションのベランダなど隣と仕切ってあるところを壁につくりかえて、普段は通り抜けられないんですがガツンと突き破ると避難できるというようなことをやっていくと。ただですね。これも少し難しく、東垂水地区の場合は通り抜けた先が崖であるとか擁壁であるという場合があります、簡単ではない。しかし、ここの横にお住まいのおばあさんは、この塀の向こうに板をかけて滑り降りる練習をしていると、こういうことを聞くと何か、何とかしてあげたいと思うわけです。

そこで幹線も道路もないまちで路地を生かすということは一体どういうことかですが、少しつこいですね。普通の路地はないかという、あるんですね。で、東垂水に私自身関わって思うのは、こういうまちの路地とは何というのでしょうか、家と家の隙間なんでしょうね。と考えるのがいいんだろうと、今日は路地サミットですので、路地にスポットをあてている分けですが、むしろ路地にスポットをあてるのではなくて、どういうんですかね。そうではない所、隙間が結果的に路地になっておるとい風に考えた方が良くはないのかなと思うわけです。東垂水を歩いていると分かってくるんですね。ですので、是非明日のまち歩き参加してください。以上です。ありがとうございました。

6. みんなで考える「路地を活かしたまちづくり手法」

(上山卓)

ありがとうございました。路地は隙間であるという話も出ましたが、これで一応4地区の事例報告ということで、ぴったり4時半に終わって頂きました。改めて4人の報告者の方にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

これからなんですが、休憩を挟みまして、夫々4事例というか4タイプ、夫々特徴がある路地のまちづくりなり、イメージがあると思いますが、会場を、講堂を出まして教室があります。会場の皆さんにどこに行ってお下さいとは言いません。好きなところ一箇所でも結構ですし、渡り歩いてもらっても結構です。ただし各教室、子どもの椅子で20脚しかありませんので、よろしくお願ひします。今報告して頂いた方が教室に入ります。そこで質問があれば聞いて、また、更に深い議論をして下さい。夫々の会場には事務局の人間がいますので、その者が進行しますし、議事録をとる者もいます。そして終わりましたら、また、この会場に戻ってまとめをやるとう段取りでございます。そうしましたら、このスケジュール表の裏に、見取り図がありますね。6年1組が生活中心型平坦市街地(神戸市駒ヶ林地区)、6年2組が商業中心型(大阪市法善寺横丁地区)、6年3組が生活中心型斜面市街地(神戸市東垂水地区)、そして一番の奥の図工室が商業・生活複合型(東京都新宿区神楽坂地区)になります。このように会場を設定しておりますので、みなさんご移動よろしくお願ひします。それではトイレ休憩を含めまして50分から各教室で開催します。



6年1組



6年2組



6年3組



図工室

7. 相互報告会

7 - 1 . 商業中心型チーム

(上山卓)

最初に、6年2組の、Aの商業中心型チーム、よろしくお願いします。

(森崎輝行)

まず講師からの追加事項として、法善寺横丁の特殊性みたいなもので5点ぐらいありました。1つ目は2代目が育っている、2つ目はミナミとのネットワーク化がどんどん進んでいる、3つ目は、商業地と商業人としてのプライドがあって、まちを中々捨てきれなかった。どこかのまちとはえらい違いで、今森崎さんと話をしていたのですが、プライドが欲しいなあと思いました。4つ目は、神戸からの義援金があって相当助かりましたという話で、また西神戸センター街からも頂いて、沢山のお金が集まりました。そして5つ目は、建設会社を含めて一流のチーム体制で行って良かったということです。

今後の課題ということで、風俗店が周辺にいっぱい出てきている感じなので、これにどう風に対応するかがまちとしての悩みになっています。

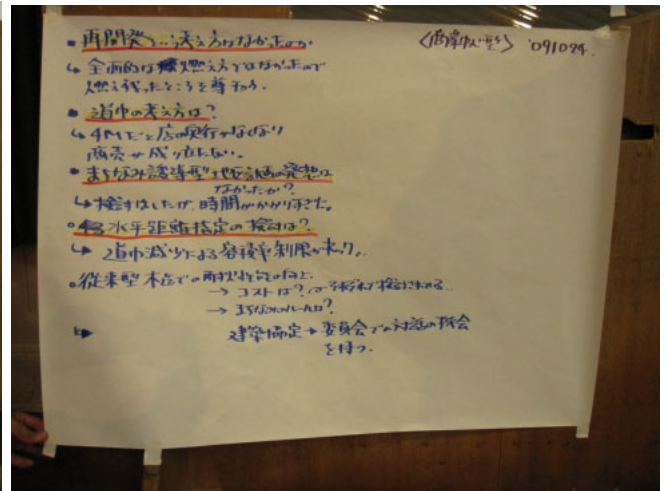
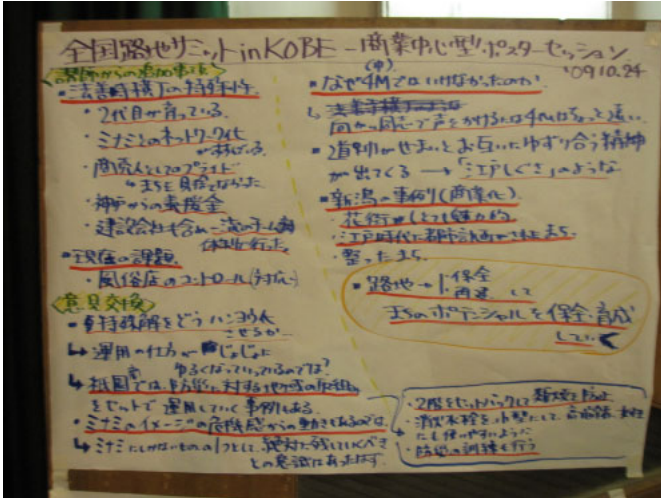
それから意見交換を行いまして、特殊解の汎用化をどのように謳っていくのだろうかという意見がありました。それと、祇園の南地区では、防災に対する地域の人的取り組みをセットで運用しているというご紹介がありました。それから、ミナミのイメージの危機感から、そういう動きもあるのではという意見もありました。

基本的なところで、僕自身もそうなんですが何で4mではあかんかったか。わざわざ苦労してまで42条2項ではいけなかったのかという質問に対しては、ちょっと向かい同士で声をかける、商業地での話ですけども、それには4mではちょっと遠い、さきほどの皆さんの話を聞いている中では、月が見えるような空間であって、何といっても月の法善寺横町ですから。それと相合い傘ですね。江戸仕草という単語が出てきましたが、道路幅が狭いとお互いに譲り合う精神が出てくる江戸しぐさができる、ちょっと肩がふれあうというのが良いのではないかという話がありました。それと新潟の事例として、花街が出てきました。

路地というのは、わざわざ燃えたものをつくりなおすというよりも、それから保全をするためにということがあ



りますが、なぜそういう風にして無理して路地を守るのかということなんですが、そのまちのポテンシャルというものがあると思うんですね。商業地だったら商業地、下町だったら下町のポテンシャルがある。それを保全・育成していくためのようは、装置ではないかと。これを変化させると、まちの活力とか値打ちとか儲かる要素など全部なくなってしまうという意味で、今までやられてきた路地というものをそのまま保全とか、もういっぺん再生していくとかしていくことではないのかなと、我が商業地域チームで出てきた内容でございます。ありがとうございます。



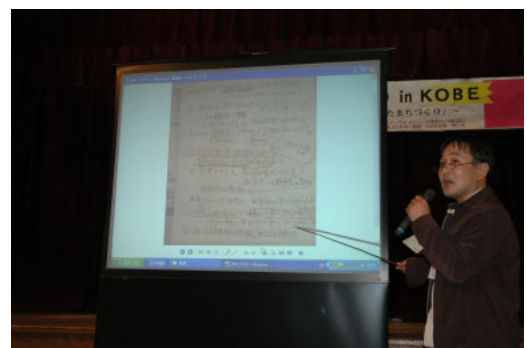
7 - 2 . 商業・生活複合型チーム

(上山卓)

はい、どうもありがとうございました。続きまして、図工室の、Bの商業・生活複合型チームの報告ということで、宜しくお願いします。

(常峰博文)

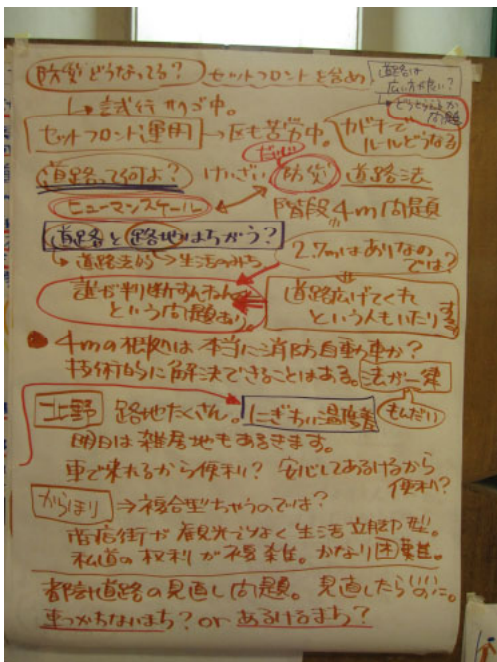
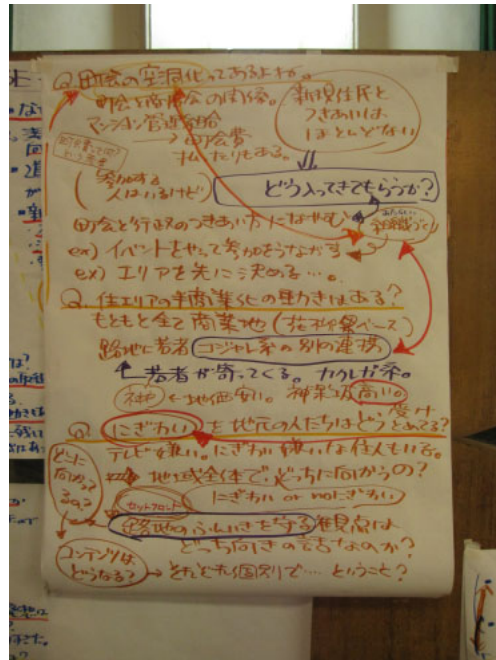
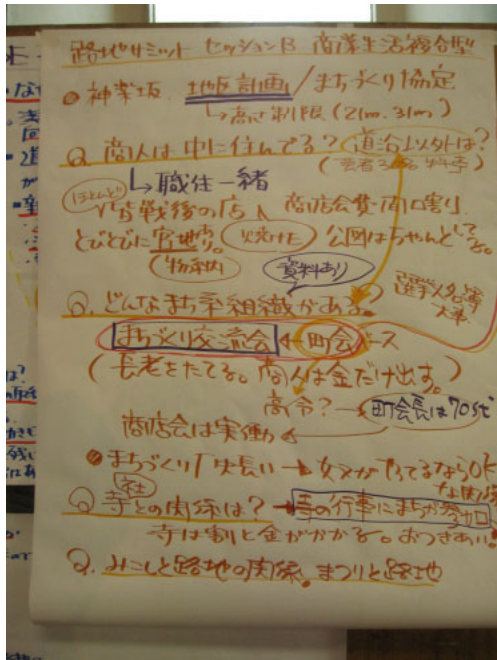
商業生活複合型ということで、今回発表がありました神楽坂という所で、神楽坂についてもうちょっと知りたいということで進みました。まず、商人は神楽坂の地区内に住んでいらっしゃるんでしょうかということでしたが、職住商が多いということです。それから、どんなまちの組織があるんでしょうかということで、まちづくり交流会として大体19団体があるということです。それが一緒になってまちづくり交流会というものをやっているという風なお話がありました。年中行事などがおこなわれていますのでお寺との関係はどうですかということでしたが、お寺とか神社ですね、そうした行事にはまちぐるみで参加しているということで、お寺と仲良く、神社と仲良くということで、割とお金がかかり大変ですということでした。それから御輿と路地との関係やまつりと路地の関係の話もありました。また、町会の空洞化ってあるよねというお話がありまして、空洞化は進んでいるということでした。その中で住宅地の半商業化の動きはありますかという質問を受けまして、路地に若者のコジヤレ系の小さなお店が点々と神楽坂の界隈に出てきており、そうした方との付き合いは未だ出ていないというか、そんなに付き合いはありませんということでした。それでドラマの舞台になったということで、テレビが嫌いになった方がいらっしゃるという話ができて、そういう方は今まで住んでいた神楽坂の建物をまわしするようにして、ご本人たちはアパートの方に引っ込むと。有名になれば、反面的なことが出てくる現象であるということでした。



まちの地区計画とか、防災面はどうなっているのかということですが、神楽坂の中に本多横丁といって、もう一つの商店街があるのですが、その道路の幅員が大体5mくらいで、それを行政の指導で6mに拡幅という話があるんですが、商店街の両端のビルが最近のビルでして、その前の道路の幅を6mにするにはほど遠いということで、中々それもどうかというので、いろいろな課題が浮きぼりになるということが話にありました。それから神楽坂界限に通っている都市計画道路の見直しをして欲しいという話もありました。

路地と道路の違いというか、法律的に4mというような、消防自動車が入る4mという幅員が本当に、これからの都市計画とか地区計画の中で本当に必要な数値なのか。消防の防災の技術が発展した現在において、そろそろ見直したらどうかという話がありました。

最後に同じ商業・生活複合型の地域として、明日路地散策をさせていただきます北野の紹介と、大阪の空堀の紹介が少しありました。北野は明日まち歩きしてもらって分かるんですけども、空堀の方は実は複合型ではないのではないのかという話が出たんですが、ちょうど時間となったということで、これで終わりにしたいと思います。以上で報告を終わらせて頂きます。



7 - 3 . 生活中心平坦地型チーム

(上山卓)

はい、どうもありがとうございました。続きまして、6年1組の、Cの生活中心平坦地型チームということで、松原さんの方から報告をお願いします。

(松原永孝)

生活中心平坦地型ということで議論をさせて頂きました。まず駒ヶ林に対するご質問ということで、漁村集落とはどんな集落ですが、路地の構成はどんな特徴がありますかという話がありました。これについては、建物が密集しているとか、狭小であるとか、あと路地空間が非常に共有性の高いところであって、みんなが良く使う。あと建物に対して表裏に道が走っていて、とくに右に向かう道が重要なんです。こういう所が路地の個性になっているという所から話が始まりました。



その中で、高知の中土佐町の久礼(くれ)というまちを良くご存じの方がおられまして、そこのご報告がありました。そこでは漁村集落の成り立ちを教えて頂きまして、漁村というのは浜ができて、海、浜に近いところを漁師さんが選ぶんやということで、第1世代というのはこの浜際に建て、第2世代はその下にという風に、だんだん浜から奥に建物がつくられていくんだということが分かりました。その中にはびっくりしましたが、45cmくらいの道もあると、そんな所やったらスケール感も全然違う。その地域では下水整備が決まった結果都市計画区域に入ってしまうんやけども、45cmの道っていういたら都市計画区域の中では何もやっていけへん、返上したいと言うたそうなんですけれども、それもでけへんので、3項を活用せんとあかんという話がありました。建て替えが厳しい所では、県や国がだまってハンコをという事例も少しあったとお伺いいたしました。

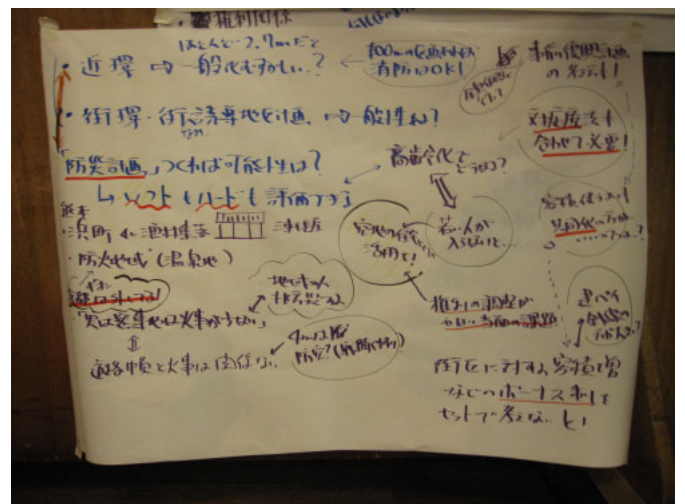
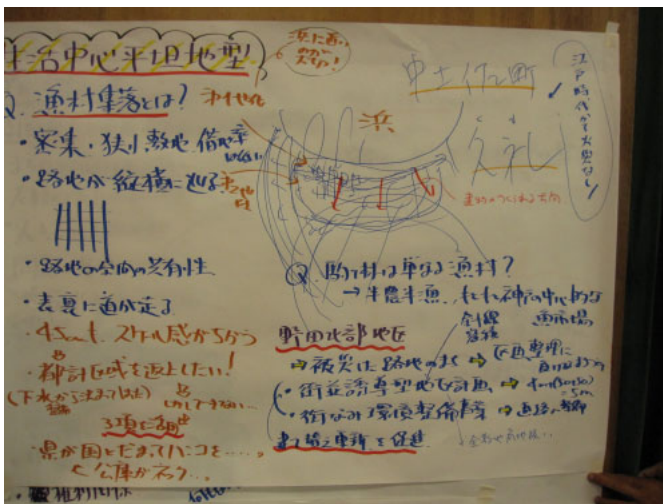
こうしたお話の中からですね。駒ヶ林は単なる漁村だったのか、もう少し違う歴史的な謂われがあるのではないかという話に移りまして、その後たまたま地区的に近いということもありまして、また担当されている行政の方が近いという話もありまして北部地区の報告がございました。こちらはですね、阪神淡路大震災で地区の半分が丸焼けになって区画整理になった。残り半分の地域はどうするかという中で、もともと路地の所のお話を区画整理に負けないようなまちにしていくやり方を考えていくという話がありました。その1つが街並み誘導型地区計画、もう1つが街並み環境整備事業という話で、街並み誘導型地区計画において道路のルールを決めて、斜線を飛ばして、容積を増やして、で、3階建てを建て増ししようと、建て替えを更新していく事業の一つの中のやり方、そして区画整理に負けない路地のまちをつくっていくやり方として紹介されました。

その中で、近隣住環境計画と、街並み誘導型地区計画とどっちが一般性があるんやという話がありました。そうすると漁村集落で2.7mばかりの道になってしまう。それを全市的にやるのはだめやないか、一般性という意味ではむしろ街並み誘導型地区計画の方が合うんじゃないかなという話がありました。その中で熊本から参加された方が、熊本県に浜町という漁村集落があって、そこは防火地域にもなるとって、もうどうにもならへんという中で、防災計画というものをつくれれば何とか担保されるのではないかねというご質問がございました。防災計画があればハード部分もソフト部分も評価されるというようなところがありました。で、防災地域でどう考えようか防災計画どう考えようかという中で、えー爆弾発言が出まして、実は密集市街地では火事が少ないんだ。歴史的にもそうや。更にですね、道路幅員と火事は全く関係がないんだ。今4mというるのは戦争時代に防空対策として焼夷弾が落ちてきたときの問題をやってただけで、それが根拠だけで、火災に対しては4mという数字は余り意味がないんだというような見解を教えてくださいました。

ただ現状のなかで、防災計画でソフトといっても高齢化してしまうと、ソフトの主体が高齢の方ばかりだとそれとどうかなという話がありまして、若い人がちゃんと入ってくる、そういう意味では空地や空き家をもっともって活用していくというようなことに繋がっていかないとあかんのやないかという話がありましたが、実際、話を聞いてみると、権利の調整というものが色々難しくて出来ていない所があり、権利調整が課題ではないかという話がありました。

そんな中でも、路地のある所、路地のあるまちに対しては、例えば容積増など街区に対するボーナス制、これも合わせてやっていかんことには、そのまちがうまく生きていけないのではないかとご提案がありました。ボーナス制の中には容積もありますが、実際に路地のまちでは建蔽の増加とか、或いは斜線の緩和とか、こっちの方がむしろ効いてくるかもしれんねというお話もございました。

このように色々なお話がありまして、さきほどの前半の話でもありましたように、対症療法もあわせて、そうしたものも必要がある中で、論点がどんどん広がっていった分けですが、これもちょうど時間となりましたというところで、幅広い議論がありましたけれども以上のような内容が平坦地型の中での議論でした。以上です。



7 - 4 . 生活中心斜面地型チーム

(上山卓)

はい、どうもありがとうございました。それでは最後に6年3組の、Bの生活中心斜面地型チーム。なんか簡易ワークショップのようなものをやられておられましたが、よろしくお願いします。

(吉田文男)

それでは、生活中心斜面地型について説明させていただきます。まず、最初に田中さんの方から、質問に答えるなかで言い切れなかったことを補足されました。そしてその回答に対してさらに意見を頂きやりとりをするという、簡易ワークショップみたいにすすみました。

最初に東垂水をご紹介された分けですけれども、隙間をどうしてつくるんやとかいろいろな質問がありまして、建物の除却が実際できない場合もあると、壊すと登記簿の問題とか、更地になると税金があがるとか、それでも当初10年くらいは税制面での特典がありました。本当に解体の意思のある人でないと、実際は壊せないのではないかとことです。



そして防災安全性について、ちょっと面白い話がありました。おばあちゃんが日常的に脱出方法を考え

ているらしいと、何かのときにどうやるかと。これもまちづくりの啓蒙が功を奏した成果だと思います。

安全性について質問がありましたが、老朽化した木賃住宅の行く末はどうなるんだというなかで、最初の説明にありましたように、木賃の集まった老朽したものについては、つぶすことは理解はできると。但し、税制面の優遇があっても良いのではという意見が参加者から出ています。

塩谷と東垂水を土地的なことを分析して、説明されておりますけれども、塩谷はV字型の谷になっていて一戸建ての住宅が多い、それに対して、東垂水は木賃住宅で溜池を埋め立てて建てたりして、そこに自分が居ても地理的に自分の位置が分かりづらいというような所。また、狭い範囲でありながら、やたら太い道路とか細い路地とかそういったものが入り交じっており分かりにくいというような所。そして通過交通ですね。急な所でも通り抜けていくような所が東垂水では見受けられるということです。

そういうなかで会場から質問がありまして、これは今まで安全性など色々やっているけれども地理的な課題の克服だけで、その先のまちをどうしようとしているのかのビジョンが見えないと。指導的にまちづくりをしている者が、住民のまちの景観や住まい方を積極的に知らせるべきではないかというようなことの質問がありまして、そしてもう一つは都市計画道路の計画区間があるのかないのかといった質問もありました。そういうなかで、何もやってないわけではなく年間20数回まち歩きをしており、それも参加者は毎回50人くらいいると。それが内向きか外向きかに対しては、それは全て内向きであると内輪の人がまちを20数回も一緒に歩いていると。というようなことを聞きました。そういうなかで、地域の方にそのまちに対する愛着を感じるようになったよという話を聞きました。そうしたまち歩きをしたなかで集約されたものが出てくるのではないかと、それにスパイスを加えてやって、将来像ですね、まちづくりコード、デザインコードのようなものが出てくるのではないかと、そして制度化して当てはめるのではなく何を求めているのか、住民の意識といったものを見ていくのが大事なことであろうと。

それから、ソフトとしての路地のしつらえですね。まちを常にメンテナンスしていくことが大切ではないかな、それは内の人と外の人を別にして人の目を意識することでまちは良くなっていくといった意見が出ました。

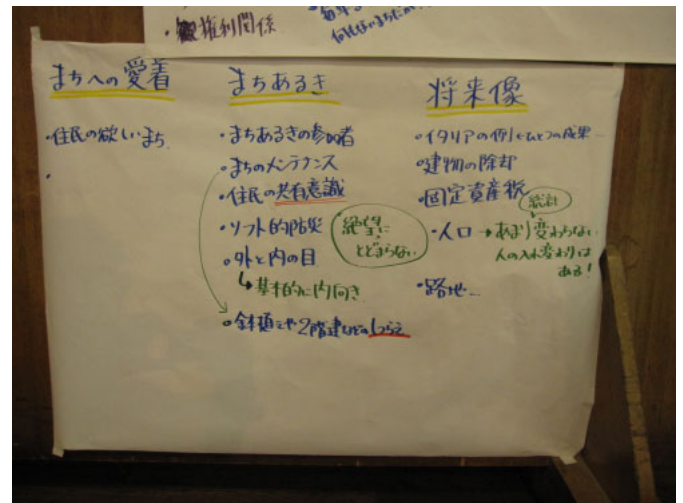
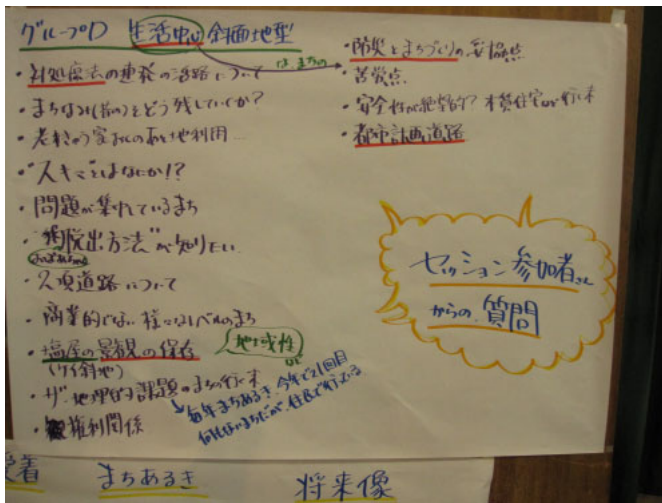
将来まちをどうしていくかというビジョンの中で、地域の方の議論でできあがったもの、いろいろな階段の問題や道の拡幅の問題など、そういったものも成果の一つではなかったのかなあという意見も出ております。

それと、まち歩きについては毎回テーマを設けてやっている、ただ20数回やっただけではなしに。そういうなかで参加者が事前に調べたりしている人が出てき始めているということで、いい現象かなと思いました。

人口ですが、全然減ってはいない。傾斜地のなかで住みづらいと思われがちですが、人口は減っていない、むしろ見晴らしがいいとかいう好条件もありますし、また土地が広い所もありますので、そこを区分けして次世代の人が家を隣に建てたりしてうまく住んでいるというようななかで、ひょっとしたら活性化しているのではないかと思います。

将来像はいるのかいないのかということに対して、一つのコープなんですね。ただ100haとう範囲でまちが広すぎて、片方の端の人は片方の端のことを知らないというような所で、1つのエリアで、そういうものが見いだせるのが課題かなという所ですね。

もとに戻りますが、まちのしつらいですね。緑を育てること 緑がものすごく多いんですけども、意識の芽生えが、これこそがデザインコードに繋がるのではというものではないかなあということで時間がきてしまっていて、ミニワークショップは終わりました。以上、報告を終わります。



7 - 5 . まとめ

(上山卓)

はい、どうもありがとうございました。以上4つの分科会と申しますか、報告をして頂いて、夫々参加された所については当然ながら他の所についてもある程度分かったかなと思います。それでこれで最後に、こういう報告を受けて、まとめのコメントを神戸山手大学の教授であります武田則明さんをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(武田則明)

武田です。よろしくお願いします。

共通しているのが、今日発表された所だけかも知れませんが、入っているコンサルタントがすごく優秀ですね。全国いろいろなところに路地はあるんですが、おそらく下町ですね、基本的には、そこには歴史があるんですね、新しいまちではなくて、古いまちですね。そういうなかで、頑張っておられるという魅力というものは凄いなと思いました。しかし、ボランタリーにしか関われないというのは、いつまでもコンサルタントがボランティアで飯くっていただけるのかという疑問を感じました。



まず法善寺ですが、法をいかにうまく善く解釈するかということですね、何か特殊解だとおっしゃってましたね。そうすると、こういう路地のあらゆる問題は、全国特殊解ではないか、どこ行っても独特であり、問題がある、それを何とか汎用的にできないか、一般解に展開していかないといけないという大きな課題があったのではないかと思います。法善寺の場合は、エンタツ・アチャコとか夫婦善哉などものすごく有名な所ですが、そこが火事になって壊れてなくなっちゃった。それを何とか直した。そうすると、つるんとしたまちになってしまった。どうしたらいいかということで、まちを汚そうということになった。こういう所が中々いいなと、私の個人的な感想ですが、そう思いました。

それから神楽坂の場合はですね、またこれはすごいなと思いました。阿波踊りを38回やられた。これもすごいことで、また、飯田堀を復元しようかという計画があるそうですが、こういうことは言っていたら必ず実現

するものなのですね、言わなかったら実現しないんです。言い続けたら確率的には絶対なる。ここでのまちづくりには是非参加したいと思ったのは、芸者あげてまちづくり。是非参加したいなあと思いました。是非呼んでください。それで福井さん、おせんべい屋さんということで、実はおせんべいを持ってきてくださっているそうです。懇親会の席で出されるそうです。今は出さん方がいいかなちょっと人数が多い。ということで是非懇親会に参加して頂いたら有り難いなと気がします。

それから3つ目の駒ヶ林地区。これ私よく知っている所ですけど、まさにそのインナー長屋であり、それからその狭い密集地域ですけれども、それで漁村で共通するのは、海岸沿いから一世代、二世代と続き、岩屋なんかに行っても確かに75cmくらい、あるいは50cmくらいの路地が家と家の間にあるんですけれども、山の上の人はそこを歩いて船に乗りに行ってますね。あれをどうみるか良く分からないですけれども、だから路地というものをもっと少し定理付けていかないとダメなんじゃないかなという気がしました。それでとくにインナー長屋制度だとか、それから近隣住環境制度というようなものを、もっともっと普遍化すべきだと思います。今まで法律だったものを色々な抜け道で共通する2項道路とか3項道路とか色々4つ位ありましたけれど、解釈によって、それから間違っていたということもあって、変化してきたことかなと思いました。

それから東垂木ですね。中々面白いなと思いましたが、ここで一番感心したのはですね。魅力がなんもないということです。そうした所を何で毎回50人近い人がウォッチングするねん。いや、ひょっとしたら、何も無いというところが良いのかなということですね。やっぱりこのまちというのは確かに、急傾斜であり、階段があり、擁壁があり、行き止まりあり、そういうことのためにですね、おばあちゃんまでがまちの安全を気にしている。そういういろんな安全については、たとえば消防でも技術革新している、それから広報によってもどんどん変わっていくと思うんですね。で、先ほどから余り出ていないのですけれども、古い日本の町家で、1階が木戸格子で2階が漆喰塗りというのがありますが、あれは道路は狭いですね、だいたい2.7m以下。これで、だれか昔、日本建築学会で発表されましたが、向かいが火事するとき1階は温度はあがらず、2階でどんどんあがっていくんですけれど、それが火事にならないような仕上げになっているそうです、伝統的に。そういうこともありますから、もっともっと歴史に学んで、また、傘さして歩けるとか、月が見えるとか、法善寺なんかいいなというところなどが感想です。ちょっと長くなりました。ごめんなさいね。

8. 次回開催地・新潟からの報告

(上山卓)

はい、どうも有り難うございました。たぶん消化不良の部分もあると思いますが、懇親会のときに出して頂くということで、肅々と最後までつとめたいと思います。それでは続きまして次回の開催地であります新潟からの決意表明ということで、新潟市政策企画部参事の池田博俊さん、よろしくお願いします。

(池田博俊)

みなさん、こんにちは。新潟市から参りました池田と申します。今日の参加者のうち一番北に住んでいる人間ではないかなと思いますが、神戸は大好きなまちで何度か伺っております。あの神戸空港と新潟、前あったんですが、あつという間に便がなくなりまして、伊丹経由で参りました。それでも伊丹からバスで一時間くらいですかね、快適な飛行機の旅を楽しませて頂きました。



そもそも去年、長野でこの路地サミットが行われまして、そのとき松原さんがいらっちゃって、来年は今年神戸だと。じゃ、その次の年は新潟でという風に思った勢いで、言ってしまっ、引っ込みがつかなくなって今日を迎えてしまっ、絶対来年やらなければならないなと、改めて決意をここで表明させていただきます。

いま後ろで新潟の路地の表情をご紹介しておりますが、本当にさまざまな顔をもつ路地が丁寧に並んであります。と申しますのは、新潟は、信濃川河口にできた港町な分けですが、港1000年の歴史があります。で、信濃川がこうあって、で港があった。だんだんと広い川ですので、砂がついていって船が着く場所がだんだんまちから遠ざかっていく、それで中州といいますが、長崎の出島のような形に砂がついていったんですね。それで江戸時代に、1655年に、港が遠いということで思い切って出島の形になったところにまちを移転します。で、そのときに幕府の直轄領になった分けですので、新潟の奉行で堀直之さんという方がおられます、その方が、新潟に来る前に長崎奉行だった分けですね。そこで出島をつくった人です。で、新潟でも出島の都市計画的なまちづくりをしようということ、350年前にやりました。

で、こういう細長い出島みたいな所に、信濃川から堀を入れ込んで、信濃川に平行して堀を入れます。で、堀と堀の間に通りをつくり、で、船が着いて、その通りごとにですね、肴のまちとか職人さんのまちとか、計画通りにやるわけです。そして通りと堀をつなぐ小路(こうじ)をつくりました、350年前にですね。で、横に長い通りがあって、そこが全部ラダー的になって小路があります。いま密集市街地という感じはありません。せいぜい長くても50mもないくらい所に小路がずうっと並んでおります。都市計画的につくりましたから、このような花街の、非常に路地マニアといえますか路地萌え推薦の、路地の風景がいっぱいあります。で、来年是非、ここへ来てですね、新潟の花街があります、日本三大花街、祇園、新橋、新潟。かつてそうだったんですね、これは踊りの家元があるということが定義なんで、新潟にも市山流というのがあります。

来年来て頂いたときに、この小路巡りの、路地巡りのマップを持ってですね、新潟のまちを皆さんで回って頂ければと思います。で、新潟はご存じのとおり、酒の国です。えーっとですね、96の銘柄の酒があります。その酒。

～右写真～ 遠山の金さんみたいですが、この銘柄を全部楽しみにしてください。用意して待っています。どうもありがとうございます。



9. 閉会あいさつ

(上山卓)

どうもありがとうございました。力強い決意表明でした。それでは最後になりましたが、全国路地のまち連絡協議会からご挨拶を頂きます。東京から世話人である、今井晴彦さん、お願いします。

(今井晴彦)

何も書いてなかったんで、何もなくていいんだと思って、しめたと思ったんですけど。とにかくみなさん、このあと飲めるので、ちょっとお待ちください。

えー、おかげさまで、今日7回目ができました。神戸は地震があってですね、じゃんじゃん区画整理かなんかしたから、神戸では路地は死滅したんだ、こう思っていたんですが、どっこ



い生きていてですね、今日話を聞いていて驚きました。ありがたいことで、なにしろ日本という国は路地でできあがった国でありますから、歴史的には、路地のまち、路地を考えるというのは、日本のまちづくりの原点と、こういう風なことで、来年も新潟でやらせて頂けるということでもあります。本日はどうもありがとうございました。

(上山卓)

はい、どうもありがとうございました。みなさんのご協力で、ほぼ時刻通りの進行となりました。ということで最後に閉会を迎えたんですけれども、その前に事務的な連絡をさせていただきます。3点ほどさせていただきます。

先ず1点、明日まち歩きで参加される方は、夫々マップが4コースとも入っておりますと思いますが、夫々登録された所に集合して頂くと、何れも集合時間は10時です。Aコースは南京街の広場、Bコースは教会前、Cコースは駒ヶ林駅の改札口、Dコースは塩屋駅の改札口です。それと2点目、このあと懇親会を予定しております。受付の時に申し込んだ方は、ここにオレンジのマークがついています。これがあれば職員室に入れます。ただ追加で入りたいという方は、職員室の入り口で受付をしておりますので、1000円をそこで払って頂くとこのオレンジマークがつきますのでよろしく願います。それと3点目、2次会について事務局から提案があるということです。あっ、後でいいですか。3点目、えー、これが一番大変なんですけど、みなさん座られている椅子。これレンタルで、最初は業者さんがあげてくれたんですが、おろすのは我々の手でやります。ですから少なくとも1脚、できれば2脚ですね、これが終わりましたら1階まで持って降りることをお願いしたいと思います。

それでは長時間、1時半から5時45分ですか、そうですね、長時間にわたり、活発な議論をして頂きましてありがとうございました。それではこれを持ちまして、全国路地のまち2009 in 神戸のフォーラムを終わりたいと思います。ありがとうございました。

10. 懇親交流会

	
開会	森崎氏挨拶



バルーンアート



バルーンアーティスト東京都北区和田氏



B級グルメ



新潟の酒一覧Tシャツ



懇談



記念撮影

Aコース：南京町～乙仲通り界限コース

神戸の南京町の変貌を見ることができた。

この町は、神戸の中心商店街、元町の背中に接している。横浜の中華街と比べるとこじんまりとしているが、その分、凝縮度が高い。ところで、神戸では中華街を何で南京町というのだろうか。南京出身者によってこの町が開設されたわけでもないし、南京出身者が多いわけでもないとのこと。私は神戸生まれだけど、子供の頃、祖父母は、中国人のことを「南京さん」と言っていたような記憶がかすかにある。当時、東京では、中国人を支那人とやや蔑視して読んでいたが、南京さんという呼称にはそうしたニュアンスはなかったように思う。それだけ、神戸は国際化していたということであろうか。時代遅れなのが都知事は、戦前のニュアンスのまま、「支那人」といつているが、少し神戸人の心の大きさを見習えと言いたい。

集合は、南京町中央の広場。この広場は、昔はなかった。地権者の善意と、コンサルタントの知恵が合わさってできたものらしい。まん前の老詳記は、「豚マン」(これも神戸独特の呼称)で有名な店で、売り出し前の時間に既に行列ができており、昔のまんま。昔、祖母に言われて行列に並んだことがある。この老詳記と広場が絶妙のコンビで、南京町のにぎわいの拠点となっている。



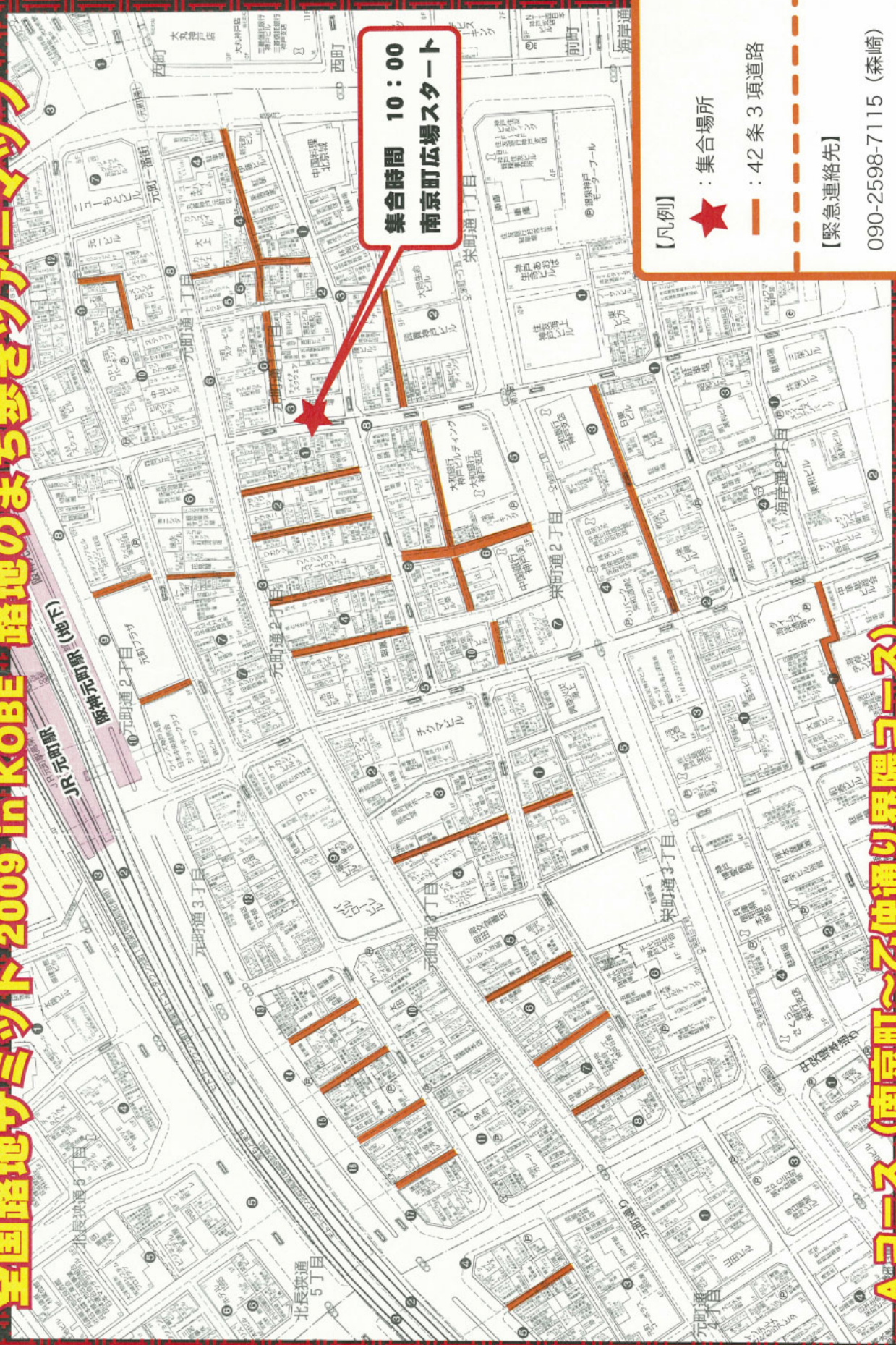
もう一つこの町でやった事業で、無電柱化は少し注目してもよいのではないか。全部地下化というような大事業にせず、目立つところだけ電柱をなくしている。方法は簡単で、裏路地等では電柱で電線を引っ張り込み、表通りは目立たないところに変圧器をおいた電柱を立て、そこから周辺の家屋に電気や電話線を引き込んでいる。要するに、電柱、電線を目障りではないようにしただけなのだが、見事にうとうしい空中のケーブルを目立たなくしている。横浜中華街は、電柱を紅色に塗り、街のオーナメント化しているが、どちらの工夫も立派なものだ。

元町とはがらりと雰囲気の違いの違う町のにぎわいを肌で感じた半日でした





全国路地サミット 2009 in KOBE 路地のまち歩きツアーマップ



**集合時間 10:00
南京町広場スタート**

【凡例】

- ★ : 集合場所
- : 42条3項道路
- - - : 【緊急連絡先】

090-2598-7115 (森崎)

Aコース (南京町～乙仲通り界限コース)

Bコース：北野・山本通界限

- まちあるきコース

フォーラムの翌日は、希望するコースに分かれてのまち歩きで路地サミットの全日程が終了した。

まち歩きは、4か所に分かれ、A：南京街～乙仲通界限コース（商業中心型）B：北野・山本通界限コース（商業・生活複合型）C：塩屋～東垂水界限コース（生活中心・山麓密集型）D：駒ヶ林界限コース（生活中心・漁村集落型）である。



北野・山本通ルート

本報告は、筆者の参加した北野・山本通界限コースを報告する。



集合場所での説明

この地区は、三宮駅の北西部の山麓地であり、緩やかな傾斜地である。明治20年代に、外国人居留地の需要増加から、当地区が指定され、異人館といわれる洋館が多く残っている地区で、観光地としても著名である。この地域の洋館群は北野山本通伝統的建築物群保存地区に指定されている。

道路網としては区内を東西に貫通する通称異人館通の山本通のほか北野通を除けば東西の主要な道路はなく、それを直交するように、不動坂、北野坂などの坂道が南北に直交する状況で、その内部の多くが複雑な路地で構成されているのが特徴である。

- 北野・山本通界限コース報告

コースは、前掲したルート図のとおりであるが、パプテスト教会前に集合後、地元建築士会の方より地域の歴史、地区の概要について説明を受け、階段状の路地から代表的に異人館スポットである北野通の異人館沿いを目指した。



まち歩きの様子

北野通の英国館、旧パナマ領事館などのスポットは観光地化しており、人通りも多く、この面する北野通も歩道整備が進んでいる。



北野通

ここから1本入った路地は、階段や、一人が通れる程度の狭小な路地が内部では続いており、一部で建て替え等が行われているものの、その建て替えは、かなり困難であることが推測される。



地区内の路地

風見鶏の館周辺も著名な観光地であるため、整備が進んでいる。石畳の道路など観光地化が

進んでいる。



風見鶏の館周辺



まちあるきの様子

路地は南北の路地の場合、急な傾斜や階段が多く、東西はなだらであるが、曲がりくねっている。その路地の内部ところどころに洋館が多数存在しており、地域に雰囲気醸し出している。



路地裏からみる洋館



シュウエケ邸（山本通）

当地区の全体的な、感想としては、訪問時間の問題か、斜面地でまた地区の建物規模が密集住宅市街地よりかなり大きいためか、路地空間の質が他地区と異なるように感じられた。

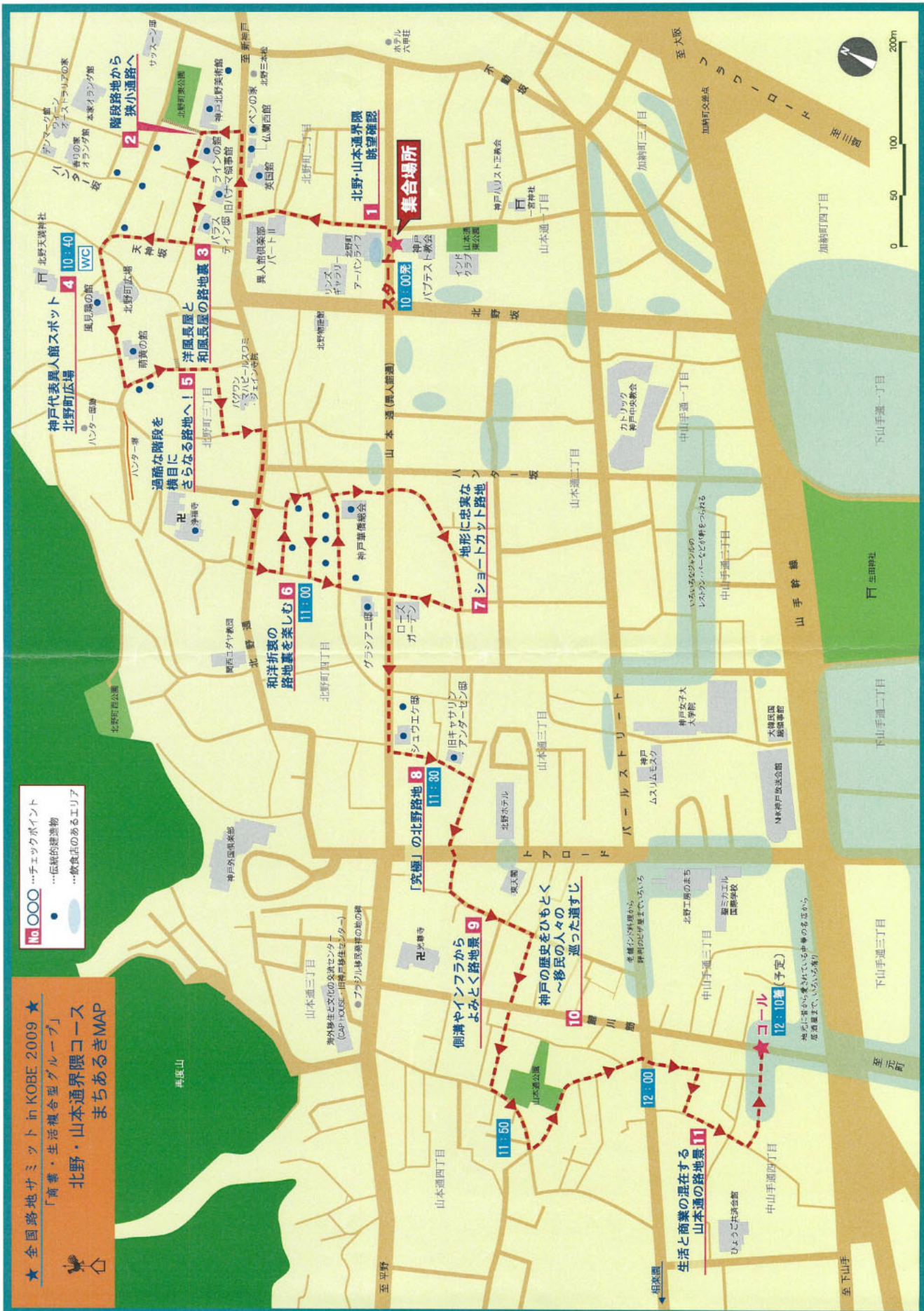
観光地として著名な場所では、整備され人通りが多く、またその周辺の建物の商業的利用も多い。ただ、その他場所では、さほど人通りが少ない。また、路地空間も塀が連なっており、そのためか、生活感の滲みだしが少ない。見た限りでは生活品の販売する商店は見当たらない。当地区の住民は、三宮周辺で買い物するなどしていることが推測される。

そのため、路地を生活空間の一部として利用するといった感じは少ない。しかし、地区の多くの洋館を中心とする建物は地区の雰囲気や品格を醸し出している。

本地区は地形上の都合で路地状の空間が多くあるが、もともとの歴史的成り立ちから、大きなロットで区画され、外国人居留地として発達した経緯からこのような街区を形成するに至っており、それが地区の特色となっている。

★ 全国路地サミット in KOBE 2009 ★
 「商業・生活複合型グループ」
北野・山本通界隈コース
 まちあるきMAP

● No.0000 ...チェックポイント
 ● ...伝統的建造物
 ● ...飲食店のあるエリア



Cコース：駒ヶ林界限コース

～ 市内で唯一、漁村集落の路地を残すまち。その裏側を隅々まで歩きます～

フリーマーケットで賑わう六間道商店街の途中を南にまがると、すぐに路地が始まった。海岸に近く大和田泊まりの一角を占めた中世の漁村集落、江戸、明治、大正、昭和と時代を変遷しつつできあがった地区である。このため近代の路地はやや整然とした区画があるが、古くなると迷路状へ変貌する。漁村であるため、海に出る南北方向に直線的でかつ幅広の道が短く入るが、それをつなぐ横方向の道は極めて幅員が狭く、3項道路、通路など複雑である。神社や歴史遺産などをその中に抱き込みつつ変化のある街なみ景観が展開されており、またコミュニティも元気に地域に息づく魅力のある路地のまちであった。

参加者は約 20 名程度、大阪外語大の森栗教授（第 2 回路地サミット参加）も学生さんを引き連れて参入し、地域の子供たちのオアシスである駄菓子屋さんでタコ焼きを振舞ってもらい



路地の町に潜むカタリスト事務所



腕塚堂へ向かう参加者



路地の駄菓子屋でタコ焼きを食す参加者



路地を抜けるとそこは海だった



なおその後震災復興の野田北部をご案内いただいた。土地区画整理による復興は、住宅展示場のような住宅街となって、綺麗で整然とし路地のまちとは全く対比的な光景が広がっている。



10月25日(日)AM10:00集合!
 集合:市営地下鉄海岸線「駒ヶ林」改札口
 緊急連絡先:090-5247-3675(松原)

全国路地サミットin神戸

神戸市内・路地のまち歩きツアー Cコース:駒ヶ林界限コース

Scale 1/2,000
 0 10 20 40 60 100m

※まち歩き中は事故等のないよう、自己の責任において参加ください。

Dコース：塩屋・東垂水界限

塩屋・東垂水地区は、昭和30年代から40年代の場当たりのミニ開発により、丘陵地に開けた住宅地である。急傾斜地を切盛りした「崖地街区」と溜め池を埋め立てた「谷間街区」等に分類される。いずれにしても、厳しい傾斜地に高密度に市街地が形成されている。

まち歩きは、JR塩屋駅から始まった。この辺りはJRと山陽電車がまったく同じ所を併走しており、ホームの階段を下りるとこの2線間の空間を通り、さらに山陽電車をくぐってまちに至ることになる。JRと山陽電車との間に空間があり、そこに「塩屋まちづくり推進会」の掲示板があり、都市計画道路「塩屋多井畑線」の見直し方針が示されるポスターが掲示されている。

しかし、いくら六甲山と瀬戸内海に挟まれた狭い土地だからとしても、良くもこんなまったく同じ所を走る路線が成立するものだと思う。須磨から明石まで約12km、ほとんど並行して走っている。地元の人に聞くと、山陽電車の方が駅数が多く、各駅停車の正確を持っており、JRの方が快速的な正確になると言う。ちなみに、料金は山陽電車の方が高いとのこと。考えてみれば、東京も京浜急行とJRが品川から横浜までほぼ並行している。

山陽電車をくぐったその先には、いきなり路地の商店街が広がっており、期待感が非常に高まってくる。



山陽電車の高架をくぐってまちに至る
その先には魅惑的な空間が



ぐるっと塩屋イラストマップ(駅コンコース)



JRと山陽電車の間の空間
地区のまちづくりに関する掲示の説明を聞く



左：JR、右：山陽電車

駅前路地商店街は後回しとなり、線路沿いに東進して、踏切を越えるとそこには早速、幅員 2m 程度の階段があり、その脇を入ったところの洋館「旧グッゲンハイム邸」を見学。旧グッゲンハイム邸は、明治大正期に神戸に滞在したドイツ系の貿易商グッゲンハイム家の邸宅だそうで、コロニアル・スタイル、1909（明治 42）年にアレクサンダー・ネルソン・ハンセル（1857 年～1940 年）の設計で建てられたと考えられている？（ホームページより）



山陽電車の踏切が既に路地幅
左手の緑が「旧グッゲンハイム邸」



旧グッゲンハイム邸（脇の路地から見る）

建物の中では、お姫様ルックに身を固めた女性達がなにやら楽しそうにうごめいており、聞いたところ、コスプレヤーの利用も多いとのこと。

見学を終え、脇の坂路地を上っていく。ふっと振り返ると、目に瀬戸内海が飛び込んでくる。東京の人間にとっては、新鮮な光景である。

入口が階段で道幅も 1 間ないところもある。自動車はおろか自転車も通らない路地である。先ほどの洋館があるせいか、この路地沿いにはピンクの外壁に白い彫刻の着いた花瓶をおいた家や、洋館風の建物も見られる。



旧グッゲンハイム邸脇の
路地を登り、振り返ると瀬戸
内海が目に飛び込んでくる。



旧グッゲン
ハイム邸近く
のピンクの外
壁の建物。白の
彫刻を施した
植木鉢も。

洋館風建物



この路地はどこまで行っても狭く、階段部分があるなど急峻である。そのためか、路地に自転車やバイクなどが放置されておらず、傾斜を除いては歩きやすく、気持ちがいい。そんな厳しい地形の中に小さな神社が鎮座している。



路地の分かれ道、どちらも狭い。正面に洋館風建物。



続く路地の坂道



路地の分かれ道には小さな神社

等高線上の水平な路地を行くと正面に「会員以外の立ち入りはご遠慮ください」との警告がある門扉を通過し、西側斜面地側に開けた空地に至る。塩屋谷川が削った谷川沿いの地区の地形が良く解る。向かい側の丘のその向こうに明石海峡大橋の主塔の頂部が見え、淡路島が近いということが解る。



塩屋谷川が削った谷沿いの市街地
向いの丘の向こうに明石海峡大橋がある

会員以外立ち入り禁止の掲示

空地を抜けて、尾根の反対側の坂道を今度は下っていく。歩いていて、住宅の敷地内に自転車がないことに気付いた。やはり自転車で生活するのは厳しい地区となっているようだ。そう言えば駅前にも自転車が放置されていなかったような気がする。といっても、駅前も道路が狭く、もとより自転車を放置しようものならたちまち通行障害となるので、放置のしようもなさそうである。



上ってきた尾根の反対側を下る。

坂道を下りきったところで、商店街に出る。塩屋駅前商店街である。まだ、午前中のため開いている店舗が少なく、賑わいの程度は解らないが、狭い路地にびっしりと店舗がひしめいている。歩いた限りほかに商店街はなく、道路状況（狭い坂状の路地）から自動車を所有している家も少なそうであることから繁華しているのではないかと想像される。



上ってきた尾根の反対側を下りきったところに、塩屋駅前商店街がある。



商店街。まだ開店前



この下ガス管の表示。地形が複雑なので配管も難しいのか・・・



降りてきた階段を振り返る。右手に毘沙門道の石標が見える。



理容店。ハーレーが目印。「美容室とよく間違われます」ほか、掲示物多数。



商店街の掲示板。ぐるっと塩屋MAP。

駅前商店街を抜けて西へと向かう。しばらくすると橋があり、塩屋谷川を渡る。川を見ると清掃している人がいて、案内人の田中正利氏（（株）都市調査計画事務所）と二言三言交わす。塩屋のまちづくりをしている人で、川の清掃をしているとのこと。この小さな川が、塩屋の市街地を形成したのである。



塩屋谷川。清掃している人はまちづくりの中心人物

さらに行くと、この辺りで最も広い道路に出る。この道路が都市計画道路になっていて、これをどのように整備するのがこの地区のまちづくりの大きな課題の一つである。



都市計画道路予定路線（塩屋多井畑線）



見晴らしのいい位置に地中海風建物？

正面の階段を、先ほど空地から眺めた向かい側の丘に登っていく。相変わらず路地、坂道、階段が続いて、尾根に出たところで道路が比較的広くなる。尾根の縁沿いは瀬戸内海が一望できて素晴らしい住宅地である。こちら側は、道路が広く傾斜も緩いことから、自動車を所有している家も多いようである。しばらくすると、また道幅が狭くなり階段も現れる。



路地の先にアイストップとなる三角屋根

道幅が広がるとガレージが現れる。



再び道幅は狭くなり、上り下りする



宅分の旗竿接道も階段で

路地を上り詰めていくと広い(4~6m)道路に出て行き止まる。看板には立ち入り禁止の警告文が英文と和文で掲示され、掲示者が「ジェームス山外国人住宅」となっている。ウィキペディアによると、「1930年(昭和5年)神戸に居住しカメロン商会を営んでいたイギリス人貿易商、アーネスト・ウィリアムス・ジェームスが、当地に自邸を含めてイギリス人のための住宅地を約60棟以上ほど開発した。やがてジェームスの名を取り、この地を「ジェームス山」と称するようになった。



ジェームス山外国人住宅

ジェームスの没後、旧邸とイギリス人住宅地を井植歳男(三洋電機創業者)が所有したことにより、近郊住宅地としてのジェームス山が誕生した。青山台一丁目には、井植を顕彰する井植記念館が建つ。」とのこと。今まで歩いてきた傾斜地の密集市街地とは全くの別世界が広がっている。ジェームス山のシンボル「ライオン像」はこの奥にあるらしいが、今回はコースに含まれていない。(ジェームス山の外国人住宅街には動物園があったとか。その名残だそうで、もう少し登るとタイガー像があるらしい。)

再び坂を下り鉄道まで至った後、さらに坂を上っていくと正面に地中海風の円塔をもつ建物が視線に入ってくる。旧ジェームス邸(望淡閣)である。現在は三洋電機の迎賓館として使用されているようだ。そのため中を見ることはかなわず、外周と通用門から庭のみ見学する。



旧ジェームス邸正門



ジェームス邸
通用門から
望む



庭を通用門から覗く



ジェームス邸外周



アイストップとなる円塔

ジェームス邸を後にして、路地巡礼の修行はまだ続く。子ども連れの家族がいるが、これほど上ったり降りたりして、子どもが大丈夫かと心配になる。車が通れる幅の道路は、急傾斜のため滑り止めのリング状の溝が打っており、その向こうには瀬戸内海が見えている。さらに、路地園芸の緑豊かな路地やクランクした路地など多彩な表情を見せている。



園芸の路地



クランク道路



坂道の滑り止めリング

まもなく山陽電車の滝の茶屋駅に到着した。この滝の茶屋駅に至る最後の階段が、まちづくりで整備された「見晴らし階段」である。従前は5段程度の階段と車路だったそうで、今は15段の階段となっている。ここで、この巡礼の旅の3/4が終了した。

滝の茶屋駅でトイレを借りて、残りの1/4ラストパートと生きたいところであるが、朝10:00に塩屋駅に集合して、12時を既に回っている。子ども連れの家族にはさすがに厳しく、子どもに続けるかと聞いて、子どもが帰ると言うことで離脱と言うことになった。

そう言えば、東京では公園にトイレが整備されているが神戸の公園にはそれが見られないことに気がつく。案内人や参加者に聞くと、神戸の公園にはトイレがないという。在神戸の人たちは、「ない方がいいね安全で。」と口々に言っている。

なお、滝の茶屋駅とは、近くに小さな滝があり、それを山陽電車がちなんでつけたそうであるが、滝というか、これが？という程度のものであった。



見晴らし階段



駅名由来の滝？



駅へのアーチが見えてきた



近くに祠

再び傾斜を登り見晴らしの良い公園（神戸市の公園一覧には載っていない。）に出る。公園の傍らには「まちの防災・耐震化の取組みを進めています」との東垂水地区まちづくり推進会のポスターが掲示してあった。

公園の先、案内人が個人住宅に向かっていく？知り合いの家かと思ったところ、その脇のネットフェンスの切れ目に入っていく？



まちづくり推進会のポスター



えっ？どこ行くの？



隙間でしょう？



いいえ！路地です！

すごい！入口は 30 cmあるか？！「こりゃあ隙間でしょう？」の間に「いいえ路地です」の答え。滝の茶屋駅への近道として、かなり使われているとのこと。確かにグーグルマップにも載っているし、ストリートビューにはどうやらそこから出てきたらしい人物も写っている。

<http://maps.google.co.jp/maps?q=34.631099,135.069012&um=1&sll=35.682935,139.768408&sspn=0.006295,0.006295&hl=ja&brcurrent=3,0x6000838473968e53:0x3939576f0730ae89,0&ie=UTF8&ll=34.630877,135.069013&spn=0.002467,0.003691&z=18>

この路地？を進んでいくとL地に右に曲がって上っていくところに。案内人によると以前はこの突き当たりも通り抜けができたとか。



L字クランク部

階段を上り商店街？を抜けていくと、「公認 滝乃市場」に遭遇。長田にあった丸五市場を思い出す。日曜日でほとんどが休みのようだ。



店舗まばらな商店街



滝乃市場



再び路地を抜けて公園に出る。この公園にもトイレはない。公園につながる道路もまた狭い路地である。路地を抜けていくと本市場だったところが駐車場になっている。通路だった部分のタイルがそのまま、面白い。



本市場の駐車場



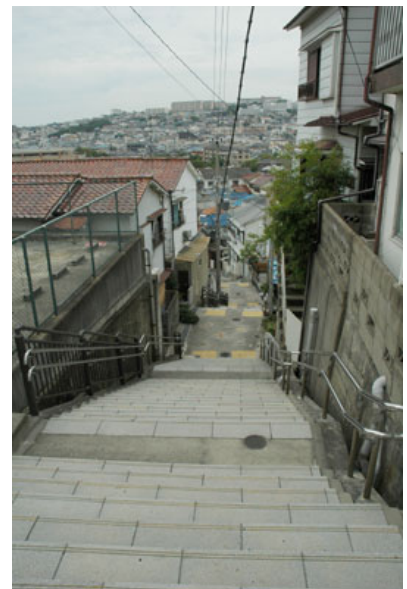
公園と公園につながる路地



そして、路地巡礼修行の旅もいよいよ最終地点である。「山手ふれあい階段」に到着である。北西の福田川が削った低地に向けて開けた斜面地に、一直線に階段が設置されている。この階段を落ちたら、とまれるのか?! 傍らに階段整備の経緯と従前の階段の様子が記念碑となっている。



記念碑
階段データ
延長：58m
幅員：4m
高低差：17m



ふれあい階段。ちょっと怖い。

本来のツアーはここで終わりであるのだが、近くに駅があるわけでもなく、バス路線もない。となると、最も近い東垂水の駅に歩いていくしかないのである。ということで、再び急傾斜地の路地巡礼修行の旅はまだまだ続く。良い加減膝に来ている。



這上階段

あんな路地、
こんな路地



路地を抜けて幅員 4m程の舗装がめちゃくちゃな道路に。この住民が舗装をしないでくれとの要望で舗装していないとのこと。通称「ガタ道」で通っており、タクシーでも通用するとのこと。それも考え方であるが、ここを通る自転車や車いすなどはいい迷惑であろう。

さて、いよいよ修験道の道も極まってきた。東垂水のまちが眼下に、そして今まで主塔のみ見えていた明石海峡大橋の全景が見えてきた。

線路沿いに丘陵を下り、福田川を渡り、東垂水の駅前に入る。今までと何と違う光景であるか。駅前には再開発ビルが幾棟も建っている。あろう事か、ある意味でほっとしている自分がいた。

今回の路地ツアーはそれほどまでに過酷であった。案内人の田中氏に言わせると、「この塩屋～東垂水のまちはパッチワークのまちと言われるが、パッチワークにもなっていない。傾斜地に形成されたために、個々のパッチワークが繋がっていない。行き止まりの階段狭隘道路で、しかもほとんど公道がない。」とのこと。このまちで、防災性能をあげていくのは至難の業であると、納得するばかりである。

しかし、だからと言ってまちづくりを断念するわけにはいかない。このまちの下にも活断層があるかもしれないし、その活断層がいつ滑るかは解らないのだ。まちの人々と神戸市の不断の活動を望むばかりである。

最後に東垂水駅周辺の写真を掲載しておく。



通称ガタ道



東垂水のまちと明石海峡大橋が！



東垂水駅前
左：垂水販売市場
上・右3点：商店街
下2点：再開発ビル





資料編

全国路地サミット 2009inKOBE 関連記事

神戸新聞 2009/10/16

「路地をまちの強みに 長田で全国サミット」

路地を生かしたまちづくりを考える「全国路地サミット in KOBE 2009」(実行委など主催)が24、25日、神戸市長田区二葉町7、旧二葉小学校や周辺地域を会場に開かれる。全国各地の路地を紹介し、防災など課題を話し合う場で、神戸では初めて。長田区の南部や南京町(中央区)など神戸市内に残る路地裏のまち歩きもあり、参加者を募っている。

古い建物が密集する市街地の路地は、人と人がようやくすれ違えるほどの狭さで、昔ながらの情緒があふれる空間。しかし、現在の建築基準法では、建物が建て替えられれば道幅は4メートル以上に広げられる。

サミットは路地の魅力を掘り起こし、残していくための方法を考えようと2003年に東京で始まった。都市計画のコンサルタントらが集まり、防災面の工夫や観光地として生かす方法を話し合う。

24日午前10時からJR新長田駅南側を散策。午後1時半から、地域の活動などに使われている旧二葉小学校で、「路地サミットフォーラム」がある。基調講演の後、二度の火災を乗り越え、古い石畳の路地が残された大阪・法善寺横丁など全国の事例が報告される。

25日は、南京町や長田区駒ケ林など4コースに分かれて町歩きツアーがある。

参加費はフォーラム、町歩きツアー各500円。申し込みは17日まで。実行委事務局(スタジオ・カタリスト内)TEL078・220・8652

(若林幹夫)

神戸新聞 2009/10/25

「路地の魅力再発見 神戸で全国路地サミット」

路地が残る街並みについて考える「全国路地サミット2009 in K O B E」(神戸新聞社など後援)が24日、神戸市長田区二葉町7、旧二葉小学校で始まった。路地を守りながら街づくりを進める全国の事例が報告され、防災上の課題などについて意見を交換した。

2003年に東京で始まり7回目。神戸での開催は初めてで、県建築士会などでつくる実行委員会が主催し、県内外から約100人が参加した。

フォーラムでは全国路地のまち連絡協議会事務局の木村晃郁さんが講演し、コンサルタントらが全国に残る路地4カ所について紹介した。

大火に見舞われた大阪・法善寺横丁は、建物の耐火性を高めることなどで路地を残した事例を報告。また、神戸市の東垂水地区では、斜面に住宅が密集しており、路地に壁や階段があることで、避難路の確保が難しいという。

参加者を交えての意見交換では、「住民の高齢化を考慮した防災計画が必要」「地域に新しく移ってきた住民も交え、路地を残すための街づくりを考えては」などのアイデアが提案された。

フォーラムに先駆け、JR新長田駅周辺では、約40人が阪神・淡路大震災後の再開発地域や、昭和、大正時代の面影が残る路地裏を散策した。

散策に参加した明石市荷山町の主婦(29)は「狭い道沿いの商店街など、残ってほしいと思った」。大阪市のコンサルタント会社に勤める男性(33)は「『情緒あふれる』など感覚的な言葉で語られる路地の魅力を、整理して考える機会になった」と話していた。25日は神戸市内で町歩きツアーがある。

産経新聞 2009/10/24

「震災被災地・神戸で全国路地サミット開幕」

昔ながらの「路地」を生かしたまちづくりを考える「全国路地サミット」が24日、神戸市長田区で開幕した。2日間の日程で、参加者が阪神大震災から復興を遂げた神戸の街を歩き、意見を交わす。

建築士や都市工学の専門家らでつくる「全国路地のまち連絡協議会」(東京)が平成15年から毎年、全国各地で開催しており、神戸では初めてとなる。

メイン会場となる長田区は入り組んだ路地が残る下町で知られる。阪神大震災では多くの地域が焼け、全棟数の過半数となる約2万3千棟が倒壊するなど甚大な被害を受けた。

15年近く経った現在、街並みは再建されたが、孤独死の増加などコミュニティーの崩壊が問題となっており、同サミット実行委の松原永季さん(44)は「再開発や復興事業で路地が減少し、住民同士のつながりが失われたからではないか」と指摘する。

この日午前、参加者約100人が3グループに分かれ、区内で最も被害が大きかったJR新長田駅周辺の商店街などを視察。三重大学工学部4年の面谷香里さん(22)は「住民の生活の色が道にまで染み出す路地はコミュニティーの場として欠かせない。この地域がまちづくりに力を入れているのを感じた」と話した。

午後からは同区内でフォーラムも開かれる。



復興した長田の町を観る参加者ら = 24日午前10時59分、神戸市長田区(彦野太郎撮影)



復興した長田の町を観る参加者ら = 24日午前11時00分、神戸市長田区(彦野太郎撮影)



路地のある長田の町を観る参加者ら = 24日午前11時07分、神戸市長田区(彦野太郎撮影)



路地のある長田の町を観る参加者ら = 24日午前11時23分、神戸市長田区(彦野太郎撮影)

- 全国路地サミット in KOBE (P.1)
- 神戸・まち歩きツアー/まちなみ緑花コンクール (P.2)
- 山麓リボンの道を行く その11 (P.3)
- 発信! まちセン研究ネット⑥ (P.4) ほか

発行：神戸市立 こうべまちづくり会館

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matsen/>

全国路地サミット in KOBE 開催

～みんなで考える「これからの路地を生かしたまちづくり」～



さる10月24日、長田区の旧二葉小学校で、「全国路地サミット in KOBE」のフォーラムが開催されました。24・25両日の午前には、長田南部、南京町～乙仲通、北野町～山本通、駒ヶ林、塩屋～東垂水でまち歩きツアーもあわせて行われました。

サミットは、安全・安心で美しい路地空間とコミュニティのあり方、路地空間の活用・保存・再生などをテーマに、2003年以来、全国各地で開催され、今回で7回目となります。

安田丑作実行委員長の「表通りよりも裏通りの方が面白い。路地の街は、居酒屋的な雰囲気があり、現場主義的まちづくりの場でもある。五感で街を捉える必要がある。震災復興した街の姿と路地を対比し、街の実相と街が抱える課題を考えることも有意義であろう」との挨拶で開会し、前回の長野サミットの報告、第1回関西路地サミットの報告がありました。

基調講演「路地を活かしたまちづくりの現在」



木村晃郁氏(全国路地のまち連絡協議会)から、「壊されつつある風情豊かな路地をアピールしよう」との呼びかけがあり、路地百

選・路地スター・連続路地シンポ・NPO粋なまちづくり倶楽部の活動などの同協議会の取り組み、東京・大阪・埼玉・青森・長野・愛知・長崎・新潟などでの市民の取り組み、路地を残すための法的取り組みなどが紹介されました。

全国路地のまち活動報告

○法善寺横丁地区(大阪市)

「元の道幅を保って復興を果たした経験から」と題して、山本英夫氏(まちづくりコーディネーター)から、平成14年9月の火事で全焼した法善寺横丁で、商業地特例として連担制度を取り入れた復興についての報告がありました。

○神楽坂地区(東京都新宿区)

福井清一郎氏(神楽坂通り商店会会長)から、「神楽坂の路地文化」について、阿波踊りや坂にロール紙を敷き詰めたお絵かきイベントなどの報告がありました。

○駒ヶ林地区(神戸市)

松原永季氏(スタチオ・カタリスト)から、「漁村集落の路地を生かした近隣住環境計画」の取り組みについて、スポット創成事業を利用した空き地の公園化、法42条2項・同条3項・同条但し書き、壁面線の指定等の法の弾力的運用などの報告がありました。

○東垂水地区(神戸市)

田中正人氏(都市調査計画事務所)から、「幹線道路も区画道路もないまちの路地をどう生かすか?」と題し、地元住民による段階的防災まちづくり、行き止まり路地まちなか防災空地整備事業などの取り組みが報告されました。

その後、ポスターセッション「みんなで考える「路地を活かしたまちづくり手法」」が行われました。「商業中心型」「商業生活複合型」「生活中心平坦型」「生活中心斜面地型」に分かれて、議論を深め、「これらの路地まちづくりは各地の固有事例かもしれないが、それを一般化していける方策を考えることが大切である」との締めくくりとなりました。



武田則明(いきいき下町推進協議会)

神戸新聞 2009/6/14

「昔ながらの街並み再考を 神戸で関西路地サミット」

昔ながらの街並みを見直したまちづくりを考える「関西路地サミット in 神戸」が13日、神戸市中央区元町通4のこうべまちづくり会館であった。神戸、京都、大阪の行政担当者が、沿道の緑を生かした事例などを報告。路地の魅力を引き出す手法や、防災上の工夫などについて意見交換した。(小川 晶)

10月に神戸で開かれる「全国路地サミット」のプレイベント。県建築士会まちづくり委員会が主催し、建設コンサルタントら約40人が参加した。

阪神・淡路大震災後、神戸市の路地整備を担当した同市住宅整備課の狩野裕行主幹は、専用の植栽スペースを設けた灘区泉通6丁目地区の4メートル道路について紹介した。

市独自の「近隣住環境計画制度」を利用し、通行部分を狭める手法だが、狩野主幹は「緑あふれる道が手軽につくれる一方、車が入りづらくなる欠点もある」と説明。現在、同制度を利用した計画を立案中の長田区駒ヶ林地区の例にも触れ、「住民の合意を得るのが難しい」と話した。

2度の火災に遭いながら路地を残して復興した大阪・法善寺横丁の報告では、街の情緒を保ちつつ、建物の防火性や避難経路の確保に配慮した経緯が紹介された。

参加した都市再生機構の男性(52)＝京都市＝は「人口が減少する今は、大規模な区画整理をやる時代ではない。建物の老朽化を見据えながら、路地での暮らしや住民の思いに沿ってまちづくりをする大切さを実感した」と話した。



実例を交えながら路地の活用方法などについて話し合った関西路地サミット＝こうべまちづくり会館

全国路地サミット2009 in KOBE 報告書

平成22年6月

全国路地のまち連絡協議会

〒105-0002 東京都港区愛宕 1-1-9 愛宕チャンピオンビル4F
(NPO)日本都市計画家協会内

TEL .03-5401-3359 / FAX .03-5401-3389

<http://jsurp.net/roji/>